

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（北海道教育大学）

授業科目名	臨床生徒指導特論
教員名（専門分野）	庄井 良信（教育学, 臨床教育学, 教育方法学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・ 選択 ・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	_____
単位数・受講者数	2単位 ・ 20名
対象課程・対象学年	学部・ 修士 ・教職大学院 1年生対象
授業計画 (いじめに該当する箇所 に下線)	<p>第1節 臨床教育学と生徒指導論</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生徒指導とは何か 2. ナラティブに聴きとる — 臨床的認識論 (clinical epistemology) 3. 教育相談の体制と問題 <p>第2節 生徒指導論の発達論的基底</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 不登校の子どもの声を聴く：自己肯定感の形成 — H. Wallon における身体・情動・自我の理論／Carl Ransom Rogers① <u>2. いじめと暴力の基底：情動の表象化</u> — Carl Ransom Rogers②／ジェンドリン／Vygotsky 3. 暴れるあの子とどう向き合うか — Carl Ransom Rogers③／非行臨床と focusing／陽性転移という神話 <p>第3節 子ども理解とアセスメント</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 黒い幸太君と白い幸太君 — 心的外傷と解離・解離／パトナムの発達の精神病理学 2. 響きあいつつ聴きとる身体 — H. Wallon の社会的自我論と愛着障害 3. 落ち着きのないあの子は ADHD？ — 査定 (assessment) と理解 (understanding) ／器質と社会／L. S. Vygotsky <p>第4節 社会文化システムと学校カウンセリング</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. フィンランドの教育改革に学ぶ — 見捨てられ不安と予期不安／社会現象への感性／社会構成主義の学び <u>2. いじめ問題への臨床教育的アプローチ</u> — <u>心理臨床・社会臨床・教育臨床の観点から</u> <u>3. いじめ予防の生徒指導と学習指導の可能性を探る</u> 4. 移行支援・キャリア教育の具体的な展開 5. 生徒指導の体制と諸問題について

【授業内容】

「いじめ」問題の背景を、心理学的、社会学的、教育学的視座から構造的にとらえなおし、いくつかの臨床的な事例も例示しながら、その理解と解決の枠組みを考察しあった。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（北海道教育大学）

授業科目名	臨床生徒指導特別演習
教員名（専門分野）	庄井 良信（教育学, 臨床教育学, 教育方法学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・ 選択 ・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	_____
単位数・受講者数	2単位 ・ 20名
対象課程・対象学年	学部・ 修士 ・教職大学院 1年生対象
授業計画 (いじめに該当する箇所に下線)	<p>①：子ども理解のカンファレンスと生徒指導 <u>ー 不登校・いじめ・被虐待等のケースに基づいて①</u></p> <p>②：生徒指導におけるコミュニティ支援システムとその課題 <u>ー 不登校・いじめ・被虐待等のケースに基づいて②</u></p> <p>③：教育相談の基礎と教育実践上の課題</p> <p>④：事例からキャリアカウンセリングの今日的意義を考える</p> <p>⑤：キャリアカウンセリングの実践的展開とその課題を考える</p> <p>⑥～⑬：Episode 分析の臨床教育学的構築 <u>ー 生徒指導・教育相談における実践記録の発達支援カンファレンス・ワークショップ1名につき約80分の臨床的な Episode の共同分析を実施する（いじめ事例を含む）</u></p> <p>⑭：社会構成主義的アプローチの新たな展開を求めて</p> <p>⑮：演習のまとめ</p>

【授業内容】

社会的に問題となった過去の「いじめ」事例を取り上げ、それぞれのケースについて、エピソード・カンファレンスを実施した。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（弘前大学・教育学部）

授業科目名	生徒指導特論
教員名（専門分野）	吉中 淳（教育心理学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・ <u>選択</u> ・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	_____
単位数・受講者数	2単位 ・ 2名
対象課程・対象学年	学部・ <u>修士</u> ・教職大学院 1年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 生徒指導における発達観</p> <p>第3回 集団指導と個別指導</p> <p>第4回 児童期・思春期の集団</p> <p><u>第5回 いじめと集団</u></p> <p>第6回 欲求不満と適応</p> <p>第7回 非行の諸相</p> <p>第8回 非行に関する理論</p> <p>第9回 不登校の実情</p> <p>第10回 不登校への対応</p> <p>第11回 体罰の定義と実態</p> <p>第12回 校則(生徒心得)の問題</p> <p>第13回 進路指導・働くことの意義</p> <p>第14回 キャリア発達の段階</p> <p>第15回 学校における進路指導</p> <p>第16回 試験</p>

【授業内容】

(第5回： いじめと集団)

児童期から思春期にかけては、本人達にとって仲間関係が人生の中で最も重要になる時期である。しかしながら、過度の同調圧力のかかる時期でもある。その行き過ぎがいじめにつながることもある。したがって、教師は、児童・生徒の間に自然発生的にできあがった集団の在り方を把握する必要がある。

本講義では、いじめの定義の変遷、いじめの統計資料の分析、過去に起きた重要ないじめ事件、森田洋司による被害者・加害者・観衆・傍観者・調停者からなるいじめの構造に関する理論などを説明し、なぜ傍観者がいじめの抑止力にならないのかについて中心に考察を行う。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（岩手大学・教育学部）

授業科目名	法律学特別演習Ⅱ
教員名（専門分野）	菊地 洋 （憲法）
教員の免許状取得のための 必修・選択の区分	必修・ 選択 ・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上 の位置づけ	法律学
単位数・受講者数	2単位 ・ 4名
対象課程・対象学年	修士 1・2年生対象
授業計画 (いじめに該当する箇所 に下線)	<p>1：ガイダンス</p> <p>2：人権とは何か</p> <p>3：校則</p> <p>4：懲戒</p> <p>5：体罰</p> <p><u>6：いじめ</u></p> <p>7：非行</p> <p>8：児童虐待</p> <p><u>9：学校における事故</u></p> <p>10：子ども・学校と情報</p> <p>11：教育の自由、日の丸・君が代</p> <p>12：こどもの多様性</p> <p>13：労働者としての教師</p> <p>14：(調整日)</p> <p>15：まとめ</p>

【授業内容】

6：いじめ

教育現場で問題となる「いじめ」について、学校側ではどのような法的責任を負うのかについて、文部科学省の通達やいじめに関する判例を参考に、受講生と理解を深めた。

9：学校における事故

学校における事故とその法的責任について解説する過程において、第6回で取り上げたいじめに関する事例も取り上げた。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

(岩手大学・教育学部)

授業科目名	子ども理解の実践と課題
教員名（専門分野）	山本 奨（学校臨床心理学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修・選択・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	教職に関する科目
単位数・受講者数	2単位 ・ 15名
対象課程・対象学年	学部・ <input checked="" type="checkbox"/> 修士・教職大学院 1・2年生対象
授業計画 (いじめに該当する箇所 に下線)	<p>第1回 子ども理解の実践と課題</p> <p>第2回 不登校の理解と対応1</p> <p>第3回 不登校の理解と対応2</p> <p>第4回 不登校の理解と対応3</p> <p><u>第5回 いじめ・非行の理解と対応1</u></p> <p><u>第6回 いじめ・非行の理解と対応2</u></p> <p><u>第7回 いじめ・非行の理解と対応3</u></p> <p>第8回 発達上の課題1</p> <p>第9回 発達上の課題2</p> <p>第10回 発達上の課題3</p> <p>第11回 キャリア教育・心理教育1</p> <p>第12回 キャリア教育・心理教育2</p> <p>第13回 キャリア教育・心理教育3</p> <p>第14回 教師の資質向上のためのスキル1</p> <p>第15回 教師の資質向上のためのスキル2</p>

【授業内容】

第5回 いじめ・非行の理解と対応1

- ・いじめの「被害」児童生徒の支援に関する検討
- ・いじめ問題に関する教師の資質向上プログラムの改善
- ・演習

第6回 いじめ・非行の理解と対応2

- ・いじめの「加害」児童生徒の支援に関する検討
- ・いじめ問題に関する教師の資質向上プログラムの改善
- ・演習

第7回 いじめ・非行の理解と対応3

- ・いじめの未然防止プログラムに関する検討
- ・いじめ未然防止に関する教師の資質向上プログラムの改善
- ・演習

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（秋田大学・教育文化学部）

授業科目名	学校臨床心理学特論
教員名（専門分野）	柴田 健（臨床心理学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・ <u>選択</u> ・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	_____
単位数・受講者数	2単位 ・ 9名
対象課程・対象学年	学部・ <u>修士</u> ・教職大学院 1年生対象
授業計画 (いじめに該当する箇所 に下線)	<p>I オリエンテーション</p> <p>1)講義・グループワーク：学校臨床心理学とは何か</p> <p>II 学校へのフィールドエントリー</p> <p>2)ロールプレイ：集会での着任挨拶，講義：生徒と教職員への着任挨拶を通して考える学校の見立て</p> <p>3)講義：校務分掌や教師の日常の活動を通して考える学校システム</p> <p>III 児童・生徒への相談活動</p> <p><u>4)ロールプレイ：いじめを訴える生徒・学業で悩む生徒</u></p> <p>5)グループディスカッション：生徒支援をどのように考えるか</p> <p>6)講義：学校システムを考慮した児童・生徒への支援</p> <p>IV 保護者への相談活動</p> <p>7)グループディスカッション：不登校の息子のことで来談した母親との面接</p> <p>8)講義：学校場面における「問題」の特殊性</p> <p>9)ロールプレイ：学校に対して不満を訴える保護者への対応</p> <p>V 教師との協働</p> <p>10)ロールプレイ：発達障害の生徒を担当する教師へのコンサルテーション</p> <p>11) グループディスカッション：職員会議・事例検討会への参加</p> <p>12) 講義：教師支援に関して重要なこと</p> <p>VI 学校緊急支援</p> <p>13) グループディスカッション・講義：学校緊急支援の現状</p> <p>VII スクールカウンセラーによる授業</p> <p><u>14) ロールプレイ・グループディスカッション：スクールカウンセラーによる授業（いじめ・思春期問題）</u></p> <p>VIII まとめ・討論</p> <p>15) グループディスカッション</p>

【授業内容】

4) ロールプレイ：いじめを訴える生徒・学業で悩む生徒

いじめを訴えて来談した生徒とスクールカウンセラーとの面接という設定で 15 分間のロールプレイを役割を交代しながら行う。本ロールプレイの設定は、いじめの訴えについて担任は事実とは認めておらず限りなく本人の虚言であろうと考えているというものである。こうした状況の中でスクールカウンセラーがとるべき面接態度や学校内でのポジショニングはどのようなものなのかを、主にシステムズ・アプローチの視点からディスカッションを行う。

14) ロールプレイ・グループディスカッション：スクールカウンセラーによる授業（いじめ・思春期問題）

実際にいじめ問題が生じている中学校のクラス担任から、いじめと思春期問題に関する心理教育を依頼されたという設定で、受講学生が実際に 30 分の模擬授業を行う。いじめと思春期問題をどのように関連づけるか、さらにいじめの当事者だけでなく傍観者に対してどのように響く心理教育を構成するかをディスカッションする。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（秋田大学・教育文化学部）

授業科目名	教職実践演習
教員名（専門分野）	井門 正美（教科教育学講座）※代表
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・ <u>選択</u> ・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	教育の基礎理論
単位数・受講者数	2単位 ・ 8名
対象課程・対象学年	学部・ <u>修士</u> ・教職大学院 修士2年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	<p>授業は演習、発表、実習、ロールプレイ等を組み合わせて行い、実際の教育現場を想定した課題を取り扱う。運営・発表ともに学生が主体的に関わるものとする。</p> <p>【授業の進行予定・進め方】</p> <p>① 11月9日(金)：学校に勤務するまでに準備しておきたいこと</p> <p>② 11月16日(金)：「困っている子」への対応</p> <p>③ 11月16日(金)：学級通信などの作成</p> <p>④ 11月30日(金)：保護者との上手な付き合い方</p> <p>⑤ 11月30日(金)：不登校・引きこもりへの対応</p> <p>⑥～⑧ 1日実習（附属学校園）</p> <p>⑨ 12月7日(金)：評価について</p> <p>⑩ 12月7日(金)：子どもの理解と教育相談の在り方</p> <p>⑪ 12月14日(金)：一日実習を振り返って</p> <p>⑫ 12月14日(金)：学校（職場）での人間関係づくり</p> <p><u>⑬ 12月21日(金)：いじめのない学級づくり</u></p> <p>⑭ 12月21日(金)：すてきな教員になるために</p> <p>⑮ 1月25日(金)：レポート</p>

【授業内容】

- ⑬ なぜいじめは起こるか
 - いじめの現状報告
 - いじめの構造分析
 - いじめの事例研究
 - いじめのケーススタディ
 - 演習及び協議

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（秋田大学・教育文化学）

授業科目名	教職発展演習
教員名（専門分野）	井門 正美（教科教育学講座）※代表
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・ 選択 ・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	教育の基礎理論
単位数・受講者数	2単位 ・ 3名
対象課程・対象学年	学部・ 修士 ・教職大学院 修士1年生対象
授業計画 (いじめに該当する箇所 に下線)	<p>【授業の概要】</p> <p>授業づくり、学級づくりについての実際の学校現場での知見を学び、現職教員の指導を受けながら、受講者間でのグループ討議、ワークショップ、体験的学習・ゲーミング・シミュレーション型授業等に取り組む。</p> <p>【授業の進行予定・進め方】</p> <p>①10月5日(金) 教員としての実践的知識・技能・態度の概説</p> <p>②10月19日(金) 学級づくり①：出会い</p> <p>③10月26日(金) 学級づくり②：ルールづくりとその定着</p> <p>④11月2日(金) 学級づくり③：組織づくり</p> <p>⑤11月9日(金) 授業づくり①：授業で勝負</p> <p>⑥11月16日(金) 生徒指導①：生徒指導って難しい？</p> <p>⑦11月30日(金) 授業づくり②：授業づくりのポイントを探ろう</p> <p><u>⑧12月7日(金) 生徒指導②：いじめ問題に向き合う</u></p> <p>⑨12月14日(金) 授業づくり③：私の授業経験から</p> <p>⑩12月21日(金) 生徒指導③：授業における生徒指導</p> <p><u>⑪1月11日(金) 生徒指導④：いじめへの対応協議</u></p> <p><u>⑫1月25日(金) 生徒指導⑤：いじめ事案の係る学年会議実習</u></p> <p>⑬2月1日(金) 学級づくり④：私の学級づくり演習</p> <p>⑭2月15日(金) 全体発表会：</p> <p>⑮レポート課題</p>

【授業内容】

- ⑧ いじめ問題に向き合う
 - 学校におけるいじめの現状及び実例
 - 子どもの発するサインを見つける
 - いじめがおきたときの教師の対応
 - 実例から学ぶー演習とグループワーク
- ⑪、⑫ いじめが起きたときの教師集団の対応
 - いじめが起きたときのロールプレイ
 - 役割分担、立場別に主張内容を整理
 - 学年部会での指導方針の協議

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（福島大学・人間発達文化研究科）

授業科目名	学校臨床心理特論
教員名（専門分野）	中野 明德、鈴木 庸裕、松崎 博文、内山 登紀夫
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・選択・ <u>選択必修</u> ・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	臨床心理士資格審査受験のための選択必修科目 E 群
単位数・受講者数	2 単位 ・ 10 名
対象課程・対象学年	学部・ <u>修士</u> ・教職大学院 1 年生対象
授業計画 (いじめに該当する箇所 に下線)	<p>【授業概要】 学校現場が抱える不登校、いじめ、非行、発達障害といった困難な問題行動に対する理解と解決に向けたアプローチを学ぶ。ここでは学校と社会、学校と家庭、子どもの発達とその障害、学校の組織と体制等の理解について学際的な視点から学び、学校カウンセリングの在り方や基本的な方法を検討する。さらに、子どもの問題行動に対して、アセスメントの方法、支援方針、援助の実際にあわせて、個別援助計画の重要性を認識する。</p> <p>【授業計画】 本授業計画は教育相談及び生徒指導の視点を含み構成されている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学校臨床心理総論 2 不登校の理解と対応 1 3 不登校の理解と対応 2 4 これからの生活指導 5 学校ソーシャルワークとは何か 6 <u>いじめの理解と対応</u> 7 カウンセリングの理論と実際 8 コンサルテーションの理論と実際 9 発達障害と家庭 10 発達障害と学校 11 <u>スクールカウンセリングの実際 1</u> 12 スクールカウンセリングの実際 2 13 スクールカウンセリングの実際 3 14 特別支援教育の現状 15 特別支援教育の将来

【授業内容】

この授業はテキストとして、『新しい実践を創造する 学校カウンセリング入門』（国立大学教育実践研究関連センター協議会教育臨床部会（中野明德編集代表）東洋館出版）を用いて、学校臨床上の課題である不登校、いじめ、非行、発達障害等の現状と対処の方法を学ぶ。

さらにスクールカウンセラーの実際として、中野明德編『DVDで見る教育相談の実際』（東洋館出版）から、実際の場面を提示して実際的な対処方法を検討する。いじめに関していえば、いじめられた生徒に対する場合といじめる生徒に対する場合の両方を検討する。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（福島大学・人間発達文化学類）

授業科目名	学校社会学特論演習
教員名（専門分野）	中田 スウラ
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・選択・ 選択必修 ・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	教育に関する社会的，制度的又は経営的事項
単位数・受講者数	2 単位 ・ 10 名
対象課程・対象学年	学部・ 修士 ・教職大学院 1～2 年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	<p>【授業概要】 戦後日本の高度経済成長がもたらした地域社会の構造変化を把握し，それが子どもの生活や成長にどのような影響を与えたかを整理する。具体的には子どもの問題行動や自殺・いじめ問題を取り上げ，その発生構造を把握し，現代的教育課題に対応する学校を追究する。</p> <p>【授業計画】 第1回：オリエンテーション（受講生の問題関心の把握） 第2回：戦後復興と地域社会（1）－日本国憲法と民主主義理念の導入 第3回：戦後復興と地域社会（2）－事例「時間のある村」の検討から 第4回：教育基本法と学校教育（1）－教育基本法の理念と意義 第5回：教育基本法と学校教育（2）－義務教育の拡大をめぐる光と影 第6回：高度経済成長と青少年をめぐる生活変化（1）－農地改革と日本的農業経営と農村 第7回：高度経済成長と青少年をめぐる生活変化（2）－エネルギー変化から捉える生活変化 第8回：高度経済成長と遊びの変化（1）－伝統的地域行事にみる子どもの遊びと農業 第9回：高度経済成長と遊びの変化（2）－高度経済成長とアニメーションにみる未来像 第10回：高度経済成長と仲間・集団の変化（1）－子どもの生活時間調査を中心に 第11回：高度経済成長と仲間・集団の変化（2）－子どもの通塾率調査を中心に 第12回：人的能力開発と学校教育改革（1）－「教育投資論」にみる進路指導 第13回：人的能力開発と学校教育改革（2）－「全国一斉学力テスト」の導入とその課題</p>

	<p>第 14 回：学歴社会の進行と学校教育における進路指導（1）－進学率調査を中心に</p> <p>第 15 回：学歴社会の進行と学校教育における進路指導（2）－高校教育の多様化を中心に</p> <p>第 16 回：青少年の問題行動と学校教育（1）－「子どもの自殺」問題を中心に</p> <p><u>第 17 回：青少年の問題行動と学校教育（2）－「いじめ」問題の背景とその構造</u></p> <p>第 18 回：青少年のニート問題と社会的背景－青少年が描く将来像の国際比較を手がかりに</p> <p>第 19 回：青少年の自立と開かれた学校教育－「開かれた学校教育」議論とその背景</p> <p>第 20 回：青少年の自立と学校教育支援－「開かれた学校教育」実践を支える学社融合</p> <p>第 21 回：教育実態調査Ⅱの対象選定（1）－教育改革実践資料の継続的収集と検討</p> <p>第 22 回：教育実態調査Ⅱの対象選定（2）－教育改革実践資料の継続的検討と調査対象の選定</p> <p>第 23 回：教育実態調査Ⅱの予備調査計画（1）－調査対象関連資料の継続的収集と検討</p> <p>第 24 回：教育実態調査Ⅱの予備調査計画（2）－調査対象への調査項目の仮設定</p> <p>第 25 回：教育実態調査Ⅱの予備調査（1）－調査対象教育実践の事前視察</p> <p>第 26 回：教育実態調査Ⅱの予備調査（2）－調査対象教育実践の事前視察結果を整理</p> <p>第 27 回：教育実態調査Ⅱの調査実施</p> <p>第 28 回：教育実態調査Ⅱの調査分析と総括（1）－調査結果の概要把握</p> <p>第 29 回：教育実態調査Ⅱの調査分析と総括（2）－調査結果の分析と総括</p> <p>第 30 回：現代教育改革の意義と今後の課題</p>
--	---

【授業内容】

戦後日本教育の展開過程について地域社会の構造変化と学校教育の関係を視点に探究する。高度経済成長期に向けて産業構造が変化し、それにともない地域社会の構造と地域生活も大きく変化した。そうした変化は家庭・学校・地域教育にも影響を与え、多様な青少年の問題行動を誘発している。そうした課題を視野に入れ、演習として教育実態調査Ⅱを計画・実施しながら、現代教育改革の中で展開される新たな学校教育の未来像について把握を進めるとともに、今後の課題について整理する。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（筑波大学・人間総合科学研究科）

授業科目名	学校教育相談
教員名（専門分野）	藤生 英行（カウンセリング心理学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・ 選択 ・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	公民ほか 中高専修免許 人間総合科学研究科生涯発達専攻の規定による
単位数・受講者数	2単位 ・ 20名
対象課程・対象学年	学部・ 修士 ・教職大学院 1・2年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所に下線）	<p>1：学校教育相談の定義—生徒指導・キャリア教育との相違</p> <p>2：認知行動療法の理論的基盤（うつを取り上げて）とその教育的利用</p> <p>3：学校不適應の心理</p> <p>4：不登校の心理（1）</p> <p>5：不登校の心理（2）</p> <p><u>6：いじめの心理（1）</u></p> <p>いじめについて、海外の心理学の知見などを紹介し、理解を深め、介入予防について検討する</p> <p><u>7：いじめの心理（2）</u></p> <p>いじめの予防および事後対応について、心理学的な観点から検討する</p> <p>8：学校危機介入の考え方（1）</p> <p>危機（発達の・状況的）を定義し、学校危機介入の考え方、対応のための体制などについて検討する</p> <p>9：学校危機介入の考え方—自殺予防を含む（2）</p> <p>自殺予防を含めた、学校危機場面を概観し、それぞれで予防的な介入について、学校全体での取り組み方などを検討する。</p> <p>10：まとめ</p>

【授業内容】

6：いじめの心理（1）

いじめについて、海外の心理学の知見などを紹介し、理解を深め、介入予防について検討する

7：いじめの心理（2）

いじめの予防および事後対応について、心理学的な観点から検討する

8：学校危機介入の考え方（1）

危機（発達の・状況的）を定義し、学校危機介入の考え方、対応のための体制などについて検討する

9：学校危機介入の考え方—自殺予防を含む（2）

自殺予防を含めた、学校危機場面を概観し、それぞれで予防的な介入について、学校全体での取り組み方などを検討する。

10：まとめ

上記を踏まえた要点をまとめる。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（東京学芸大学・教育学研究科）

授業科目名	学校臨床心理学特論（a）
教員名（専門分野）	松尾 直博（教育心理学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・ 選択 ・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	教職に関する科目（幼・小・中・高）
単位数・受講者数	2単位 ・ 20名
対象課程・対象学年	学部・ 修士 ・教職大学院 1年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校における諸問題と臨床心理学・学校心理学 2 受講者による発表と討議（生徒指導上の諸問題，予防的・開発的生徒指導） 3 受講者による発表と討議（組織的な生徒指導，学級経営，問題行動への対応，チーム援助，サポートチーム，非行） 4 受講者による発表と討議（教育相談，教育相談体制，児童生徒理解，教育相談技法，スクールカウンセリング，役割と制限） 5 受講者による発表と討議（他機関との連携，組織内連携） 6 受講者による発表と討議（キャリア教育，進路指導，職業観，勤労観，キャリアガイダンス，困難を抱える子どものキャリア支援） 7 受講者による発表と討議（発達障害と心身障害，特別支援教育） 8 受講者による発表と討議（<u>いじめや人間関係の問題</u>） 9 受講者による発表と討議（非行・暴力行為） 10 受講者による発表と討議（臨床心理学，カウンセリング心理学，学校心理学） 11 受講者による発表と討議（幼児児童の問題） 12 受講者による発表と討議（生徒の問題） 13 受講者による発表と討議（保護者の問題） 14 受講者による発表と討議（教職員の問題） 15 総括討議 <p>主に第8回でとりあげるが，他の回の討論の中でいじめについても適宜とりあげる。</p>

【授業内容】

(8 受講者による発表と討議 (いじめや人間関係の問題))

授業履修者が学校教育における諸問題について話題提供を行い、それについてディスカッションを行う。いじめについては、毎年、必ず話題提供の中に含まれている。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（東京学芸大学・教育学部）

授業科目名	集団心理学演習Ⅰ・Ⅱ（大学院）
教員名（専門分野）	杉森 伸吉（集団心理学・社会心理学）
教員の免許状取得のための 必修・選択の区分	必修・ <u>選択</u> ・選択必修・その他
教育職員免許法施行規則上 の位置づけ	教職に関する科目（幼・小・中・高）
単位数・受講者数	2単位 ・ 12名
対象課程・対象学年	学部・ <u>修士</u> ・教職大学院 全学年対象（主に2年生）
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	1～15. 集団心理学に関する英語論文の発表と討論

【授業内容】

このうち、いじめに関する研究発表がいくつかあったので、解説と討論を行った。

いじめ自殺が10年おきにピークを迎えていること、いじめ自殺は女子より男子が3倍ほど多いこととその理由、集団遊びなどによるいじめの予防、いじめの早期発見とその対応策などを話した。

また、体験活動におけるいじめと、いじめの発生理由や対応などについて2回にわたり授業とディスカッションを行った。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（東京学芸大学・教育学部）

授業科目名	現代教育実践の課題 D（大学院共通科目）
教員名（専門分野）	杉森 伸吉（集団心理学・社会心理学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・選択・ <u>選択必修</u> ・その他
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	教職に関する科目（幼・小・中・高）
単位数・受講者数	2単位 ・ 80名
対象課程・対象学年	学部・ <u>修士</u> ・教職大学院 全学年対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	<p>前半（8回まで）を担当。後半は、関口貴裕教員。</p> <p>1：オリエンテーション</p> <p><u>2：長期野外生活体験における異年齢子ども集団の変容（1）</u></p> <p><u>3：長期野外生活体験における異年齢子ども集団の変容（2）</u></p> <p><u>4：自然の中での生活学校</u></p> <p><u>5：いじめと不登校の文化社会心理学</u></p> <p><u>6：インターネットにおける集団意志決定</u></p> <p>7：裁判員制度の設計における集団心理学の役割</p> <p>8：まとめ1</p> <p>9：文章理解の認知メカニズム</p> <p>10：読みと学習と学習観</p> <p>11：認知の個人差とワーキングメモリ</p> <p>12：脳のトレーニングと熟達化</p> <p>13：薬で脳を鍛える</p> <p>14：記憶と知識の神経機構</p> <p>15：まとめ2</p>

【授業内容】

第2回 長期野外生活体験における異年齢子ども集団の変容（1）

異年齢の初対面の子ども集団においては、二泊までは子どもたちも他者から受けるストレスに我慢できるので、いじめなどもでにくいですが、三泊以上の宿泊体験の場合は、許容できない子に対するストレスが我慢を越えてしまい、いじめなどの行動が増える傾向がある。いじめがでる場合も、最初の二、三日のあいだに、いじめの前段階に相当する部分があり、そこでいじめを予見したり予防したりもできる。

第3回 長期野外生活体験における異年齢子ども集団の変容（2）

異年齢の初対面の子ども集団が、班を形成して10泊11日で長期野外生活体験をしたときの、集団の変化やいじめの発生などについて、さまざまな事例を交えて解説した。いじめの契機にもいくつかの種類があり、初対面の時の違和感がタネとなり、いじめに発展する場合や、集団の規範に従わない子に規範を伝えようとして制裁的に行われるいじめや、仲の良かった子同士が、些細なきっかけで、一方が他方に攻撃を加えるようになるいじめなど、理由や対応方法も異なりうることを示した。また、さまざまないじめのケースに対する対応策についてディスカッションした。

第4回 自然の中での生活学校

同じクラスの小学生たちが、少年自然の家に4泊5日して、昼は担任教師が通常の授業を行い、放課後は自由な時間を設けて自由に遊んだり体験活動を行ったりする、試行的な活動における子ども集団の変化、いじめの発生などについて解説した。自由遊びを通じて集団が次第に仲良くなること、発達障害などの理由で、いじめたりいじめられたりする場合でも、周囲がその子を見る目が変わることで、居場所作りができて、いじめを含む問題行動が減少することなどを解説した。

第5回 いじめと不登校の文化社会心理学

時代や文化を越えたいじめの共通点と相違点について解説した。

第6回 インターネットにおける集団意志決定

いじめ自殺が10年おきにピークを迎えていること、いじめ自殺は女子より男子が3倍ほど多いこととその理由、集団遊びなどによるいじめの予防、いじめの早期発見とその対応策などを話すとともに、体験活動（長期野外生活体験、生活体験学校）におけるいじめと、いじめの発生理由や対応などについて話した。また、インターネット社会の特質と、ネットいじめの特徴、対面的ないじめとネットいじめの相違点などについても話した。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（横浜国立大学・教育人間科学部）

授業科目名	臨床生徒指導論講義Ⅱ
教員名（専門分野）	犬塚 文雄（生徒指導）
教員の免許状取得のための 必修・選択の区分	選択
教育職員免許法施行規則上 の位置づけ	専修免許に関する科目
単位数・受講者数	2単位 ・ 20名
対象課程・対象学年	修士院生対象
授業計画 (いじめに該当する箇所 に下線)	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 学校グループアプローチ（SGA）とは 3. <u>SGAの今日的意義</u> 4. SGAの研究法について 5. SGAの著作権について 6. SGAの諸形態について 7. SGAの基本的要因について 8. SGAの構成要素について 9. SGAの目指す方向について 10. SGAの源流について 11. SGAの背景理論について 12. SGA支援の基本的観点について 13. SGA評価の基本的観点について 14. <u>SGAの先行実践と先行研究について</u> 15. 振り返りとまとめ

【授業内容】

(第3回：SGAの今日的意義)

第3回の授業において、臨床生徒指導の集団支援法としての学校グループアプローチ（SGA）が子どもたちのいじめ問題の予防、特に、いじめの観衆や傍観者の層に影響を及ぼしているピアプレッシャー（仲間関係の同調圧力）の緩和に有効であることを論じた。

(第14回：SGAの先行実践と先行研究について)

14回では、いじめ予防プログラムとして横浜市教育委員会が作成した「子どもの社会的スキル横浜プログラム」、また、横浜プログラムと連動するアセスメントツールとして同委員会が作成した「YPアセスメント」の特徴と活用法について話題提供を行った。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（山梨大学・教育人間科学部）

授業科目名	教育心理学特論
教員名（専門分野）	岡林 春雄 （教育心理学）
教員の免許状取得のための 必修・選択の区分	必修・ <u>選択</u> ・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上 の位置づけ	幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）
単位数・受講者数	2単位 7名
対象課程・対象学年	学部・ <u>修士</u> ・教職大学院 1年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	<p>第1回 <u>いじめと子どもたちの状況</u></p> <p>第2回 教育の流れと現状</p> <p>第3回 「心理教育」とは</p> <p>第4回 教師の気にしないといけないこと</p> <p>第5回 子どもの心理</p> <p>第6回 ロールプレイング（第1グループ）受講生を半数に分け実施</p> <p>第7回 ロールプレイング（第2グループ）</p> <p>第8回 心理療法から教育への示唆</p> <p>第9回 学習とは</p> <p>第10回 教育とは（山梨・巨摩中学校の教育）</p> <p>第11回 教育システム</p> <p>第12回 ホーリスティックな教育とは</p> <p>第13回 教育現場を見直そう</p> <p>第14回 これからの教育</p> <p>第15回 全体を振り返って</p>

【授業内容】

第1回：いじめと子どもたちの状況

教育現場の状況を確認するため、これまで行ってきた「いじめ調査」の結果（『心理教育』金子書房、1997 参照）を示しながら、（文科省、各教育委員会関連のデータと比較して）、受講生の小学校・中学校・高等学校での体験ならびに、現在教育現場に関わっていて気になっている子どもたちの状況についてディスカッションを行う。

この授業では、中盤で、ロールプレイングを行うが、受講生はこれから教師になる人、また、教育現場を経験している人が多いので、いじめ問題にどう対処するのか、ロールプレイングを使いながら、具体的に検討する。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（上越教育大学）

授業科目名	特別活動特論
教員名（専門分野）	橋本 定男（特別活動，生徒指導，学級づくり）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・ 選択 ・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	教育課程及び指導法に関する科目 ・特別活動の指導法
単位数・受講者数	2単位 ・ 38名
対象課程・対象学年	学部・ 修士 ・教職大学院 1年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所に下線）	<p>第1回：児童生徒自身が仕切る話し合い（学級会，学級総会）と教師が仕切る話し合いの違いとは？</p> <p>第2回：学級活動内容(1)諸問題の話し合いによる解決と内容(2)適応，人間関係，スキル指導等の関係は？</p> <p>第3回：話し合い指導における「教師の出番」は，あるほうがよい？それとも，ないほうがよい？</p> <p>第4回：①多数決とは？②「わくわく授業」の話し合い授業を視る。その授業が提案していることは？</p> <p><u>第5回：いじめ問題に子どもが向かうときの「話し合い」とは？</u></p> <p>第6回：学級崩壊の現状打破に向かう際の「話し合い」とは？</p> <p>第7回：人間関係形成能力を高める活動と話し合い。社会性育成というときの特別活動のミッションは？</p> <p>第8回：話し合いが「深まる」とは？深まるには実は「事前指導」がポイント。しかし他者には見えない。さて？</p> <p>第9回：「違いを越えて合意を形成する」話し合い指導とは。（合意形成理論、対話理論）</p> <p>第10回：AorB型議題をどうつくるか。（そのプログラム）</p> <p>第11回：AorB型議題において合意をどうつくるか。（そのプログラム）</p> <p>第12回：話し合い授業場面の分析①（話し合い授業を分析する視点）</p> <p>第13回：話し合い授業場面の分析②（論点整理）</p> <p>第14回：話し合い授業場面の分析③（分かり合い）</p> <p>第15回：話し合い活動は児童生徒に何を育て，学校教育の何を担うか。そのために教師はどう働き掛けるか。</p>

【授業内容】

第5回：いじめ問題に子どもが向かうときの「話し合い」とは？

1 いじめ問題への取組みには二つのアプローチがあること

○教師主導によるアプローチ

○子ども主導によるアプローチ

- ・多くの実践は事態の重要度や人権への配慮から教師主導で進められる。これは至当である。
- ・しかし、教師主導で完結されてしまいやすいところに問題がある。子どもが問題意識をもって立ち上がるということがなければ真の解決はない。
- ・子ども自身による主体的な取組みがどうしても必要である。その中心が話し合いになる。

2 いじめ問題に子どもが向かうときの「話し合い」

- ・学級活動内容（1）で扱う。
- ・ただし、教師主導の内容（2）と連動させることがポイントである。
- ・内容（2）によって事態の収束が図られることが条件になる。
- ・事例1 「学級で構造化されたいじめ問題に対する教師の指導」
教師による収束までの取組み
- ・内容（1）の取組み
 - 子どもへの根回しと「世論づくり」
 - 自主的活動の主体となる「実行委員会」づくり
 - 話し合いの準備（話し合いの組織、それまでの体験・熟達度に応じて）
 - 活動原案 直接「いじめ」を対象とするのはよくない。
キャンペーン型
その中に、ルールづくり、運動づくり
 - 話し合いの事前指導
 - 話し合い本番における教師の助言
 - 話し合いの決議後の実践活動
 - ゴールは「追放宣言」

3 いじめ問題の持続可能な取組み

- ・小さなトラブルを自力で解決する話し合い・実践活動の積み重ね

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（上越教育大学）

授業科目名	特別活動演習
教員名（専門分野）	橋本 定男（特別活動，生徒指導，学級づくり）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・ 選択 ・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	生徒指導，教育相談及び進路指導等に関する科目 ・生徒指導の理論及び方法
単位数・受講者数	2単位 ・ 24名
対象課程・対象学年	学部・ 修士 ・教職大学院 1年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所に下線）	<p>第1回：セット1「学級話し合い活動の定石と急所」①：典型的な話し合いのある活動をどうつくるか</p> <p>第2回：セット1「学級話し合い活動の定石と急所」②：「仲良しサッカー大会」の活動づくり</p> <p>第3回：セット1「学級話し合い活動の定石と急所」③：「仲良しサッカー大会」活動計画の検討</p> <p>第4回：セット1「学級話し合い活動の定石と急所」④：典型的な話し合い活動における合意形成の道筋</p> <p>第5回：セット1「学級話し合い活動の定石と急所」⑤：集団決定のある話し合い授業の分析</p> <p>第6回：セット2「AorB型学級話し合い」の指導①：違い・対立を越えて合意する話し合いをどうつくるか</p> <p>第7回：セット2「AorB型学級話し合い」の指導②：AorB型の議題づくり（議題づくりプログラム）</p> <p>第8回：セット2「AorB型学級話し合い」の指導③：AorB型の話し合いづくり（合意形成プログラム）</p> <p>第9回：セット2「AorB型学級話し合い」の指導④：AorB型の話し合い授業の分析①；教師の働き掛け</p> <p>第10回：セット2「AorB型学級話し合い」の指導⑤：AorB型の話し合い授業の分析②；成果と課題</p> <p>第11回：セット3「いじめ問題に向かう活動」の指導①：子どもが取り上げる前に教師は何をどうするか</p> <p>第12回：セット3「いじめ問題に向かう活動」の指導②：子どもが自主的に取り組む活動をどう指導するか</p> <p>第13回：セット3「いじめ問題に向かう活動」の指導③：いじめ問題が起こらない学級，いじめ問題に強い学級</p> <p>第14回：セット3「いじめ問題に向かう活動」の指導④：学級の間関係の問題に向かう話し合い授業の分析</p> <p>第15回：まとめ：生活現実に正対し，改善しようと話し合い活動を軸にした取組ができる学級をつくる</p>

【授業内容】

第 11 回：セット 3 「いじめ問題に向かう活動」の指導①：子どもが取り上げる前に教師は何をどうするか

○いじめが発覚した段階で「宣戦布告」。総力戦がスタートする。全てが戦時下体制に入る。

○学級活動・内容（2）、生徒指導の機能の発揮

- ・教師が自身の責任においてすべきことがある。まず、止めることである。そして3つで攻める。
- ・被害者（と保護者）に対するアプローチをどうするか
- ・加害（と保護者）者に対するアプローチをどうするか
- ・学級集団（と家庭）に対するアプローチをどうするか

○学校として（チームとして）の対応をどうするか

第 12 回：セット 3 「いじめ問題に向かう活動」の指導②：子どもが自主的に取り組む活動をどう指導するか

○原則；教師の対応によって事態を収束させてからの出発

○子どもが立ち上がらなければ真の解決はない。

○子どもの自主的な活動（学級活動・内容(1)）の組織

- ・根回しと「世論づくり」がポイントになる。
- ・実行委員会を立ち上げる。自主的、組織的な取組の母体づくり
- ・キャンペーン活動、○○運動、○○週間を展開する。

○「いじめ追放宣言」がゴール

○家庭と連携する活動をどう進めるか

第 13 回：セット 3 「いじめ問題に向かう活動」の指導③：いじめ問題が起こらない学級、いじめ問題に強い学級

○学級づくりとして攻める。学級集団（個々の子ども）の体質改善、強化を図る

○学級活動・内容(1)による諸問題の解決

- ・リアルな問題についての話し合い
- ・ルールづくり
- ・決議に基づいた実践活動

第 14 回：セット 3 「いじめ問題に向かう活動」の指導④：学級の人間関係の問題に向かう話し合い授業の分析

○学級の諸問題についての学級会の授業分析（ビデオ）

○議題「教室にはやっているあだ名をどうするか」学級会の授業分析

第 15 回：まとめ：生活現実に正対し、改善しようと話し合い活動を軸にした取組ができる学級をつくる

○「いじめに強い学級」をつくる。

○日常指導（学級づくり、学校づくり）として、子どもが自ら生活を向上・改善する力を育てる。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（上越教育大学）

授業科目名	実践場面分析演習 I 「臨床心理」
教員名（専門分野）	内田一成（臨床心理学）・五十嵐透子（臨床心理学）・加藤哲文（臨床心理学）・佐藤淳一（臨床心理学）・高橋靖子（臨床心理学）・宮下敏恵（臨床心理学）・山本隆一郎（臨床心理学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・ <u>選択</u> ・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	教職課程及び指導法に関する科目 ・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）
単位数・受講者数	2 単位 ・ 17 名
対象課程・対象学年	学部・ <u>修士</u> ・教職大学院 1 年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	<p>全 15 回の授業の中で、学部 3 年生・学部 4 年生の教育実習経験や、修士課程 1 年生の現職教員の教育実践に関する臨床心理学的テーマ（児童生徒との関わり方・不登校・<u>いじめ</u>・非行・発達障害・学級経営・特別支援教育・校内相談体制・保護者の問題・外部機関との連携）を発表し、教育実践の振り返りと教育場面における臨床心理学的テーマに関する具体的対応に関する討論を行う</p> <p>第 1 回：オリエンテーション 第 2 回～第 1 3 回：臨床心理学的テーマ（児童生徒との関わり方・不登校・<u>いじめ</u>・非行・発達障害・学級経営・特別支援教育・校内相談体制・保護者の問題・外部機関との連携などに関する発表） 第 14 回～第 15 回まとめ</p>

【授業内容】

教育実践場面における臨床心理学的テーマ（いじめ）

発表者が教育実践場面でのいじめやいじめに関連する事柄に関する事例を報告し、3つのグループでいじめ対応の対応に関して討論を行い発表する。最後に、担当教員がいじめの基本的認識とそれらの対応に関して講評を行う。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（上越教育大学）

授業科目名	学校臨床心理学特論
教員名（専門分野）	佐藤 淳一（臨床心理学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・ <u>選択</u> ・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	生徒指導，教育相談及び進路指導等に関する科目 ・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法
単位数・受講者数	2単位 ・ 18名
対象課程・対象学年	学部・ <u>修士</u> ・教職大学院 1年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所に下線）	第1回：ガイダンス 第2回：学校教育と心理臨床 第3回：不登校 <u>第4回：いじめ</u> 第5回：子どもの身体化 第6回：子どもの行動化 第7回：子どもの症状化 第8回：虐待 第9回：発達障害 第10回：子どもの心理面接（表現療法・遊戯療法） 第11回：子どもの心理面接（カウンセリング・言語面接） 第12回：親・親子並行面接 第13回：コンサルテーション 第14回：連携と協働 第15回：まとめ

【授業内容】

(第4回：いじめ)

1. いじめの定義や捉え方

<文科省によるいじめの定義>

平成6年度から17年度

「自分より弱いものに対して一方的に、身体的・心理的な攻撃を継続的に加え、相手が深刻な苦痛を感じているもの。なお、起こった場所は学校の内外を問わないことにする」

注) 個々の行為がいじめに当たるか否かの判断を表面的・形式的に行うことなく、いじめられた児童・生徒の立場に立つて行うこと、さらには学校が、自らの学校にもいじめがあるのではないかとの問題意識を持って積極的に実態把握を行うことが示された。

平成18年度以降

「当該児童生徒が一定の人間関係のあるものから、心理的・物理的な攻撃を受けたことにより、精神的苦痛を感じているもの」

注1) 「一定の人間関係にあるもの」とは、たとえば同じ学校・学級や部活動のもの、仲間や集団など、当該児童と何らかの人間関係のあるものを指す。

注2) 「心理的な攻撃」とは、「仲間外れ」や「集団による無視」など心理的な圧迫などで相手に苦痛を与えるものを含む。

注3) 「物理的な攻撃」とは、身体的な攻撃のほか、金品をたかられたり、隠されたりすることなどを意味する。

<森田(1986)によるいじめの定義>

「同一集団内の相互作用において優位に立つ一方が、意識的にあるいは集合的に他方に対して精神的・身体的苦痛を与えること」(例 いじめの4層構造論)

→社会心理学的な観点から、いじめようという積極的な意図のほかに、いじめ構造の力動性により、消極的にいじめに参加しているケースも含める。

<いじめの類似行為との比較>

・ふざけ、からかい、いじわるとの比較・・・どちらも相手が不快になることを狙った行為であるが、ふざけ、からかい、いじわるは、行為が継続的でない、歴然とした力の差が存在しない、深く傷つける意志がない、度を越さないなど。

・けんかとの違い→どちらも攻撃性を表出した行為であるが、けんかは対等にやりあって反撃できる、決着がつくと終わる、ただ相手に辛い思いをさせるのが目的でない、相手を攻撃する相応の理由があるなど

<悪質ないじめと犯罪行為>

被害の程度の甚だしいいじめについては、もはやいじめの域を超えて、触法行為、犯罪行為として扱うべきである(深谷, 1995)(例 大河内清輝事件は暴行・脅迫・リンチ)。他方で、いじめとして捉える理由として、悪質ないじめも最初はふざけ合っていたものが集団の相互作用によって進行したものであることや、犯罪として扱われる暴行には、加害者と被害者の間に特別な人間関係は存在しないが、いじめとしての暴力には被害者が加害者の集団に取り込まれて、そこから逃げ出せないでいるメカニズムが働いていることがあげられる。

<いじめについての大人の誤解> (藤生, 2007)

- ・これからの人生のために、いじめに立ち向かうことを学ばなければならない
- ・いじめられる側にも、いじめられる問題がある。いじめられても仕方ない。

2. 今日的いじめの特徴

<いじめの流動化，罪悪感の希薄化，事件の隠蔽性>

動機・目的は、これといった理由らしい理由がない。相手が苦しむのが面白い。自分がいじめられる側にならないためという消極的な理由の場合もある。手段・手口は、相手の人格を否定するような陰湿で残忍な方法で、次第にエスカレートしていく。その手口は悪質，巧妙化で，なかなか大人に見つからない。大人に知らせてしまう密告者がいた場合，あとで強い制裁が加えられる。いじめ加害者は、粗暴で非行型の子どもばかりでなく，成績が良い子どもや特別問題のない子どももいる。大人に見つかっても，罪悪感が薄く，何か言い訳をみつけて正当化し，表面的な反省や謝罪にとどまる。いじめ被害者は，誰もがいじめられる可能性をもっており，以前いじめていた子どもが次にはいじめられるなど流動的である。いじめられ体験は，自尊感情の低下，恥辱感，孤独感につながり，自信は無力化し，いじめられる理由は自分にあると思ひこむ。

3. 被害者側の心理的理解と対応

- ・いじめ被害者の心的現実を知る

恥辱感，劣等感，孤立感，自尊心の低下，無力感，絶望感，罪責感・・・

激しい場合は，身体症状，精神症状，さらに自殺念慮となって現れる。

体験者の手記，小説，映画を読み，被害者の主観を通した理解に努める。

いじめの被害を受けてきた子どもたちは自分の気持ちをも自分に隠す。周囲の者に「助けて」と言えないことも多い。面接を積み重ねることで，被害者がまず自分の気持ちにつきあい，自分を守り助けるもう一人の自分を作ることが大切な仕事である（Stones, 1993）。

被害者への心のケア（例）

- 1) 安全な環境や関係を提供する。
- 2) 外傷性の経験を言語化したり象徴化して表現し，情緒を解放・整理する。
- 3) 主体性を回復し，現実生活との折り合いを見出していく。

・援助者の「いじめたほうが悪いのだから」という説明は，CIの自尊感情を高めることにならない。Thが被害感情から目をそらせようとする慰めは，慰めてもらわなければ立ち直ることのできない弱い存在であることを意味する。被害感情に受容・共感しながら，CIの世界をともに共有することが基本である。そして加害者，被害者のどちらが悪いかを問題にするのではなく，被害者がいじめられた原因と知っていることについて，それがいじめられる理由にはならないことを確認していく作業が必要である（森，2007）

4. 加害者側の心理的理解と対応

「隠された被害感情」（楠木，2002，森，2007）

加害者の心理的背景には何らかの被害感情が存在する。被害感情だけでなく，過去に実際の被害を受

けている場合もある。加害者を被害者に謝罪させても、「自分もやられたことがある」「自分だけ罰せられるのは損」として正当化することが多い。その背景にある被害感情を扱わないまましていると、ますます歪んだ行為へと結びつきやすい。

「影、コンプレックスとしての脅威」(森谷, 1999)

加害者は被害者に自らの意識化できないコンプレックスや影を投影する。

「いじめっ子は本当は強くはなく、弱い子ども自分の弱さを投影し、自分の弱さにいらだち、その気持ちをいじめられっ子にぶつけているのかもしれない。その意味で、いじめっ子といじめられっ子は根っこ部分で深く結び付いているということができる」(森谷, 1999)。

「満たされない権利欲」(中井, 1997)

子どもたちが家族の中で権利を制限されて、自由に振る舞えず、親などに権力をふるわれているほど、権力への飢餓感も強い。自分より弱者をいじめることで、ふだん虐げられているためのストレス発散や権力への欲求を満たす。

→加害者側への心理教育、あるいは心のケアが必要である。

5. 学級集団の心理的理解と対応

「いじめの4層構造モデル」

いじめは加害者だけでなく、観衆の存在によって増幅し、傍観者の存在によって暗黙の支持が得られる。これによっていじめが促進され、抑止作用が働かなくなる。傍観者が増え、劇場性が増すことが特徴。自分がいじめられることを恐れてなかなか仲裁に入れない(森田, 2004)

「いじめの許容空間」(桑原, 1999 など)。

学級集団の雰囲気が一元的で、異質性(影)や個性を排除する空気に染まっている。また、いじめを許容する、傍観する空気に陥っている。先生の一面的な熱心さによって集団が過度に競争的・懲罰的になっていることもある。

→子どものいじめ問題には、現代の社会背景や大人の問題も反映されている。

6. SCとしての理解と対応について

- ・被害者への心のケアとセラピストの中立性
- ・教職員との連携や協働、学級や学校としての取組み
- ・いじめを主訴としてSCに相談する児童生徒への留意点

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（上越教育大学）

授業科目名	教育相談・カウンセリング論
教員名（専門分野）	宮下敏恵（臨床心理学）、五十嵐透子（臨床心理学）、加藤哲文（臨床心理学）、高橋靖子（臨床心理学）、佐藤淳一（臨床心理学）、山本隆一郎（臨床心理学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修・ <input type="checkbox"/> 選択・ <input type="checkbox"/> 選択必修・その他（ <input type="checkbox"/> ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法
単位数・受講者数	2単位 ・ 約 127 名
対象課程・対象学年	学部・ <input checked="" type="checkbox"/> 修士・教職大学院（免許プログラム院生）
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	<p>第 1 回：学校現場における教育相談の必要性</p> <p><u>第 2 回：児童・生徒の問題行動 いじめ</u></p> <p>第 3 回：児童・生徒の問題行動 不登校</p> <p>第 4 回：学校における危機介入</p> <p>第 5 回：外部機関との連携</p> <p>第 6 回：心理アセスメント①</p> <p>第 7 回：心理アセスメント②</p> <p>第 8 回：児童・思春期の健康関連行動に関する知識</p> <p>第 9 回：カウンセリングの考え方と援助方法①</p> <p>第 10 回：カウンセリングの考え方と援助方法②</p> <p>第 11 回：教師に必要な児童期の精神病理の知識①</p> <p>第 12 回：教師に必要な児童期の精神病理の知識②</p> <p>第 13 回：教師に必要な思春期の精神病理の知識①</p> <p>第 14 回：教師に必要な思春期の精神病理の知識②</p> <p>第 15 回：発達障害の支援と連携</p>

【授業内容】

教育相談に関連する児童生徒の問題行動について講義する中でいじめの問題をとりあげている。

その中ではまず、いじめ問題に関して生じやすい誤解をあげ、いじめに関する基本的知識を説明している。

そして、いじめはなぜ生じるのかについて、いじめ加害者の心理から、いじめ被害者の心理から、学級集団の心理からの3点から説明を行っている。最初にいじめ加害者の心理的背景に関するいくつかの理論、考え方を説明し、いじめ加害者の理解について概説を行っている。さらに、いじめ被害者に対する援助について、しっかりとまもることはもちろんであるが、長期的な視野に立っての支援も必要であることを説明している。そして、学級集団の心理としていじめが生じやすい雰囲気について説明を行っている。

最後にいじめへの対応についてどのようにしたらよいかについて解説を行っている。

授業の途中においてはいじめの早期発見に向けて、保護者から電話がかかってきた場面を指定し、担任の先生となった場合にどのような点に気をつけどのように対応するか、グループ討議を行わせ、より具体的な対応を自分たちで考えるような課題を行わせている。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（岐阜大学・教育学研究科（教職大学院））

授業科目名	生徒指導・教育相談の理論と実践
教員名（専門分野）	柳沼良太（道徳教育・生徒指導）、林幸克（特別活動・学級経営）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・選択・ <u>選択必修</u> ・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	教職に関する科目（教職の意義等に関する科目）
単位数・受講者数	2単位 ・ 49名
対象課程・対象学年	学部・ <u>修士</u> ・ <u>教職大学院</u> 1年生対象（研究科共通）
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒指導の意義と原理 2 生徒指導の歴史的考察 3 生徒指導と教育課程 4 生徒指導の行内組織体制 5 進路指導 6 キャリア教育 7 職場体験学習の意義と課題 8 職業レディネステスト等の活用 9 外部諸機関・施設との連携 10 生徒指導主事に求められる資質・能力 11 教育相談の意義と原理 12 カウンセリングのマインドとスキル 13 <u>生徒指導と教育相談の諸問題に関するケーススタディ</u> 14 生徒指導と教育相談の今後の展望 15 授業の総括

【授業内容】

生徒指導と教育相談の理論をもとに、いじめ問題を根本的に理解する。被害者、加害者、傍観者、仲裁者の立場をそれぞれ検討し、いじめの構造を分析する。

児童生徒のいじめに関する事例研究を通して、その問題点や対応の在り方を分析・検討する。児童生徒の個性と発達課題を踏まえ、いじめに関する問題行動の事後処理的な指導法だけでなく、積極的に予防する指導法を考察する。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（岐阜大学・教育学研究科）

授業科目名	臨床心理基礎実習Ⅱ
教員名（専門分野）	宮本正一(教育心理学) 伊藤宗親 [総合情報メディアセンター(カリキュラム開発)] 宮地幸雄 [非常勤]
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・選択・ <u>選択必修</u> ・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	教職に関する科目（教職の意義等に関する科目）
単位数・受講者数	1単位 ・ 6名
対象課程・対象学年	学部・ <u>修士</u> ・教職大学院 1年生対象
授業計画 (いじめに該当する箇所 に下線)	第1回：ガイダンス 第2回：相談活動における具体的実践例1(不登校・ひきこもり) <u>第3回：相談活動における具体的実践例2(非行を含む問題行動・いじめ)</u> 第4回：相談活動における具体的実践例3(各発達段階に特有の諸問題) 第5回：ロールプレイング実習(小学生・不登校) 第6回：ロールプレイング実習(小学生・ひきこもり) 第7回：ロールプレイング実習(中学生・不登校) 第8回：ロールプレイング実習(中学生・ひきこもり) 第9回：ロールプレイング実習(不登校児童の担任) 第10回：ロールプレイング実習(不登校児童の母親) 第11回：ロールプレイング実習(問題行動を有する小学生の母親) 第12回：ロールプレイング実習(問題行動を有する小学生の担任) 第13回：ロールプレイング実習(非行傾向のある中学生) 第14回：ロールプレイング実習(非行傾向のある中学生の母親／担任) 第15回：総括

【授業内容】

第3回：相談活動における具体的実践例2(非行を含む問題行動・いじめ)

NIME 教師教育教材「学校教育とカウンセリング」のVTRを視聴した後、VTRの中で活用されている教育相談・カウンセリングに必要とされる基礎的技能を解説した。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（愛知教育大学・教育学部）

授業科目名	学校精神保健演習 I
教員名（専門分野）	五十嵐 哲也 （臨床心理学）
教員の免許状取得のための 必修・選択の区分	必修・ 選択 ・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上 の位置づけ	養護に関する科目
単位数・受講者数	2単位 ・ 10名
対象課程・対象学年	学部・ 修士 ・教職大学院 1・2年生対象
授業計画 (いじめに該当する箇所に下線)	<p>第1回：学校精神保健の特質と現代的課題</p> <p>第2回：児童生徒の精神保健上の問題とその対応①不登校</p> <p>第3回：<u>児童生徒の精神保健上の問題とその対応②いじめ</u></p> <p>第4回：児童生徒の精神保健上の問題とその対応③非行</p> <p>第5回：児童生徒の精神保健上の問題とその対応④学習障害</p> <p>第6回：児童生徒の精神保健上の問題とその対応</p> <p style="padding-left: 2em;">⑤注意欠陥・多動性障害</p> <p>第7回：児童生徒の精神保健上の問題とその対応</p> <p style="padding-left: 2em;">⑥自閉症スペクトラム</p> <p>第8回：児童生徒の精神保健上の問題とその対応⑦心身症</p> <p>第9回：児童生徒の精神保健上の問題とその対応⑧摂食障害</p> <p>第10回：児童生徒の精神保健上の問題とその対応⑨児童虐待</p> <p>第11回：児童生徒の精神保健上の問題とその対応⑩自傷と自殺</p> <p>第12回：児童生徒の精神保健上の問題とその対応⑪統合失調症</p> <p>第13回：児童生徒の精神保健上の問題とその対応⑫うつ</p> <p>第14回：児童生徒の精神保健上の問題とその対応⑬不安障害</p> <p>第15回：学校での対応を中心とした全体的な討論</p> <p>第16回：まとめ</p>

【授業内容】

(第3回：児童生徒の精神保健上の問題とその対応②いじめ)

「いじめ」について、実態、文部科学省による定義、加害者・被害者等の心理、いじめによる被害者への影響、いじめの経過（孤立化・無力化・透明化）、いじめの構造（加害者・被害者・傍観者・観衆）等の基礎的知識を講義した後、演習形式によって、事例検討を中心に議論を行っている。特に、本講義では現職養護教諭ならびに現職一般教科の教諭、ならびに臨床心理士を目指す大学院生が参加しているため、それぞれの立場からの理解の特徴と支援の役割分担について、学校臨床の実際的支援の立場から議論を深めている。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（三重大学・教育学部）

授業科目名	学校臨床心理学特論
教員名（専門分野）	岡田 珠江（学校臨床心理学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・ <u>選択</u> ・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	_____
単位数・受講者数	2 単位 ・ 50 名
対象課程・対象学年	学部・ <u>修士</u> ・教職大学院 1～2 年生対象
授業計画 (いじめに該当する箇所 に下線)	<p>I 1～4 回：学校臨床心理学の理論 学校臨床心理学の理論と技法による心の表現を学び、児童生徒の様々な問題行動の意味を理解する。</p> <p>II 5 から 8 回：学習・適応・家族に関する支援 心の発達や機能など臨床心理学的見地から学習・適応・家族に関する支援の可能性を探る。次回までに講義①～⑧を踏まえて受講者自ら実践を試みる課題を提示する。</p> <p><u>III 9～12 回：実践報告の発表と討論</u> <u>受講者の実践報告から学校教育活動での実践的方法と留意点を議論する。さらにスクールカウンセラーをはじめ、様々な立場の人との連携について検討する。</u></p> <p>IV 13～15 回：問題予防的・発達促進的支援 生徒指導・教科学習・保健活動・部活動・学級経営・学校経営などでの問題予防的・発達促進的かかわり方への適用を検討する。</p>

【授業内容】

いじめについての事例，実践事例．

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（滋賀大学・教育学部）

授業科目名	心理療法特論
教員名（専門分野）	芦谷 道子（臨床心理学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・ 選択 ・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	教職に関する科目
単位数・受講者数	2単位 10名
対象課程・対象学年	学部・ 修士 ・教職大学院 1・2年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	<p>1. 心理療法概説</p> <p>2. ～8. 心理療法の理論と技法</p> <p>① 来談者中心療法</p> <p>② 精神分析</p> <p>③ 対象関係論</p> <p>④ 芸術療法</p> <p>⑤ 遊戯療法</p> <p>⑥ 認知行動療法</p> <p>⑦ 感覚統合療法</p> <p>9. ～10. 心理的援助における問題の定式化</p> <p>① アセスメント</p> <p>② 援助方法の選択と評価</p> <p><u>11. ～13. 心理的援助における連携と協働</u></p> <p><u>① 保護者・家族との連携</u></p> <p><u>② 学校内外のリソースとの連携</u></p> <p>14. 心理支援の倫理・法的側面</p> <p>15. 心理療法についての総括的検討</p>

【授業内容】

・学校での様々な問題を取り上げ、そのなかでいじめの問題も扱った。いじめの問題を具体的に検討し、保護者や家庭、学校以外のリソースとどのように連携しながら対応してゆくかを論じ、検討した。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（京都教育大学・教育学研究科）

授業科目名	保健体育科教育教科内容論 X
教員名（専門分野）	森 孝宏
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・選択・ 選択必修 ・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	【専修免】教科又は教職に関する科目
単位数・受講者数	2単位 ・ 4名
対象課程・対象学年	学部・ 修士 ・教職大学院 2年生対象
授業計画 (いじめに該当する箇所 に下線)	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション、学校危機総論。 2 学校危機支援活動と学校 3 教員として必要な自殺予防概論 4 児童生徒への自殺予防教育 5 保護者への自殺予防教育 6 学校における相談体制の確立、教職員自身の心の健康と自殺予防 7 児童生徒の自傷への対応 8 不登校と自殺 9 ひきこもりと自殺 <u>10 いじめの加重による自殺</u> 11 暴力行為と自殺 12 児童虐待と自殺 13 危機介入に必要な学校臨床でみられる精神疾患 14 事後介入、スクールカウンセリングとスクールソーシャルワーク 15 学校での精神的・心理的危機のまとめ

【授業内容】

(第10回：いじめの加重による自殺)

はじめに、いじめ加重による自殺の危険性のある児童生徒の評価について、アメリカ精神医学会出版APPから2012年に出版された **Preventing Bullying and school Violence** (いじめや校内暴力予防) から、概観する。

介入方法として、メンタラリゼーションに準拠した自傷・自殺介入を、英国ロンドンの事例を具体例として **Routledge** 出版社から2012年出版の **Minding the child** (子どもを考える) から学ぶ。続いてレジリエンスに準拠した学校でのいじめによる自傷予防プログラムを **Springer** 出版社から2012年出版の **Handbook of Resilience in children** (子どもにおけるレジリエンス・ハンドブック) のアメリカ・マサチューセッツ大学の取組から学ぶ。

以上の世界的に最新のいじめの加重による自殺に関する知見を得た上で、日本の教育現場で、実際問題として何ができるのか、できないのか討論を行う。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（京都教育大学・教育学研究科）

授業科目名	国語科教育特論
教員名（専門分野）	寺田 守（国語科教育）
教員の免許状取得のための 必修・選択の区分	必修・選択・ <u>選択必修</u> ・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上 の位置づけ	【専修免】教科又は教職に関する科目
単位数・受講者数	2単位 ・ 5名
対象課程・対象学年	学部・ <u>修士</u> ・教職大学院 2年生対象
授業計画 (いじめに該当する箇所に 下線)	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 他者との関わりを希薄化させる子どもたち 3 <u>いじめと言葉の教育</u> 4 国語教育における「他者」と「主体性」 5 子どもの読みと大人の読み 6 読むことと実験・観察すること 7 論理を育てる「他者」という視点 8 今江祥智「野の馬」論 9 吉野弘「夕焼け」論 10 主題指導とは何だったのか 11 映像とことば 12 平和教育と現代児童文学 13 国際学力調査の検討 14 他者と対話するということの意味 15 まとめ

【授業内容】

(第3回：いじめと言葉の教育)

高木まさき『「他者」を発見する国語の授業』(大修館書店、2001年)を教科書として、いじめと言葉の教育について、演習形式の授業を行っている。

文部科学省『平成20年度「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」について』より、小中高における暴力行為の発生件数は約6万件と3年連続で増加しており、小中においては過去最高の件数に上ること、小中高において自殺した児童生徒が136人(うちいじめが原因であったのが3人)であることが明らかになった。

また「女子高生コンクリート詰め殺人事件」を事例として検討し、加害者の少年たち13人の関与の他、監禁の事実を少なくとも数十人の少年が知っていたという事実を確認した。加害者の少年たちの言葉が、現実を認識したり、意味付けたり、将来を見通したりすることのために働くのではなく、現実から遊離し、仲間内に共有される快感を増幅させるためにだけ働いていたことが分かった。

その上で、単声化する言葉を、ミハイル・バフチンの言語論を手がかりとして、対話の欠如している状況を検討した。対話的關係にあるとは、発話が複数の価値観を内に取り込んで構成される多声的な言葉となることであり、価値の対立による葛藤を内に孕んだものだということである。

以上のことから、生活の言葉のうち対話的關係を作る働きの重要性が明らかになった。他者に介入することなく、単声化した言葉に満たされているのは現代社会の様々な場面で見られる。教室の授業にあっても、他者の存在を認め、異質な他者を理解することが大切になる。言葉を扱う国語科の教育では、いじめの問題を直接扱うことはできなくとも、言葉の対話性、多声性を回復するための指導を行うことで、学習者の他者理解に貢献することができる。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（京都教育大学・教育学研究科）

授業科目名	道徳教育特論 II
教員名（専門分野）	藤川 信夫
教員の免許状取得のための 必修・選択の区分	必修・選択・ 選択必修 ・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上 の位置づけ	【専修免】教科又は教職に関する科目
単位数・受講者数	2単位 ・ 8名
対象課程・対象学年	学部・ 修士 ・教職大学院 2年生対象
授業計画 (いじめに該当する箇所 に下線)	<ol style="list-style-type: none"> 1 導入 2 <u>教育が生み出す道徳問題（1）－「いじめ」の教育人間学</u> 3 教育が生み出す道徳問題（2）－「児やらい」の構造分析 4 教育が生み出す道徳問題（3）－「ひきこもり」の教育人間学 5 教育改革と道徳（1）－中国雲南省昆明の小学校のケース 6 教育改革と道徳（2）－構造分析と討論 7 教育改革と道徳（3）－日本の教育改革の歴史と展望 8 教育改革と道徳（4）－討論 9 教育と福祉のドラマトウルギー（1）－全体構想と8つのテーゼ 10 教育と福祉のドラマトウルギー（2）－全体構想と8つのテーゼ 11 教育と福祉のドラマトウルギー（3）－老人介護福祉施設のケース 12 教育と福祉のドラマトウルギー（4）－老人介護福祉施設のケース 13 教育と福祉のドラマトウルギー（5）－児童自立支援施設のケース 14 教育と福祉のドラマトウルギー（6）－児童自立支援施設のケース 15 教育と福祉のドラマトウルギー（7）－教育と福祉、理論と実践をつなぐもの

【授業内容】

(第2回：教育が生み出す道德問題（1）－「いじめ」の教育人間学)

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（京都教育大学・教育学研究科）

授業科目名	臨床心理学特論 I
教員名（専門分野）	内田 利広 （教育臨床心理学）
教員の免許状取得のための 必修・選択の区分	必修・選択・ <u>選択必修</u> ・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上 の位置づけ	【専修免】教科又は教職に関する科目
単位数・受講者数	2単位 ・ 13名
対象課程・対象学年	学部・ <u>修士</u> ・教職大学院 2年生対象
授業計画 (いじめに該当する箇所 に下線)	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション：概説と担当者決定 2 思春期・青年期の今：スクールカウンセリングの経験から 3 “思い”の心理療法：対話の意味と深まり 4 事例1～5：教育場面における対話から 5 事例6～9：教員との対話 6 思春期の心、わかる、わからない：事例1～5 7 思春期が分かるために：事例6～9 8 思いの心理療法の適用事例：事例1，2 9 思いの心理療法の適用事例：事例3 10 学校教員と心理臨床 11 現代の青年像 12 セラピストの課題：職業人として求められるもの 13 <u>思春期・青年期を理解するためのヒント：不登校・いじめ</u> 14 <u>思春期・青年期を理解するためのヒント：心の内側に入り込む</u> 15 まとめ

【授業内容】

(第13回：思春期・青年期を理解するためのヒント：不登校・いじめ)

テキストに示されたいじめの場面を提示し、その中に示される子どもたちの心理をどのように理解するかを、臨床心理学の視点から論じた。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（京都教育大学・教育学研究科）

授業科目名	発達障害心理特別演習 IA
教員名（専門分野）	佐藤 美幸 （障害児心理）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・選択・ <u>選択必修</u> ・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	【特支専修免】特別支援教育に関する科目
単位数・受講者数	2単位 ・ 1名
対象課程・対象学年	学部・ <u>修士</u> ・教職大学院 2年生対象
授業計画 (いじめに該当する箇所 に下線)	<ol style="list-style-type: none"> 1 イン트로ダクション 2 インクルーシブ教育 3 発達障害と告知・自己理解 4 発達障害と就学指導 5 発達障害と余暇 6 発達障害と就労 7 DSM-IV による診断 8 発達障害と薬物療法 9 発達障害と家族支援 10 発達障害と非行・犯罪・司法 11 発達障害と虐待 <u>12 発達障害といじめ</u> 13 発達障害と不登校 14 発達障害と行動分析 15 まとめ

【授業内容】

(第12回：発達障害といじめ)

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（兵庫教育大学・大学院学校教育研究科）

授業科目名	児童・生徒の理解と教師の関わり
教員名（専門分野）	富永 良喜（臨床心理学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・選択・ <u>選択必修</u> ・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	第6条の2（免許法別表第1第3欄 教科又は教職に関する科目）
単位数・受講者数	2単位 ・ 204名
対象課程・対象学年	学部・ <u>修士</u> ・教職大学院 1年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	<p>第1回：児童生徒の問題行動の現状をとらえ、その原因や社会的背景について考察し、理解を深める。</p> <p>第2回：児童生徒理解に基づく生徒指導を進めるうえでの実践的方法について、開発的・予防的・問題解決的な視点から総合的に考察する。</p> <p>第3回：学校を取り巻く今日的状況を明らかにしたうえで、バーンアウトという概念を手がかりに、教師のメンタルヘルス（心の健康）について論考する。</p> <p>第4回：学校教育相談の理論を、わが国の学校教育相談実践史・概念規定・全体的枠組という視点から考察する。</p> <p>第5回：学校教育相談における児童生徒理解の理論と実際に関する全体的枠組・具体的方法について講述する。</p> <p>第6回：学校教育相談における支援の理論と実際について、カウンセリング・コンサルテーション・コーディネーションの視点から検討を行う。</p> <p>第7回：試験・試合・ケンカなどのディリーストレッサーへのストレスマネジメントに関する理論と実際について論考する。</p> <p>第8回：災害事件事故などのトラウマティックストレッサーへのストレスマネジメントに関する理論と実際について論考する。</p> <p><u>第9回：心の健康教育といじめ防止教育について講述する。</u></p> <p>第10回：学校におけるキャリア教育の意義・目的・現状について概説し、キャリア教育の側面から児童生徒理解について考える。</p> <p>第11回：学校におけるキャリア教育の理論的背景と最近の動向について紹介し、論考する。</p> <p>第12回：学校におけるキャリアカウンセリングについて、その要点を示し、解説する。</p>

- 第13回：教師期待効果とその生起過程に関する研究を展望しながら、学級において展開される教師と児童生徒の相互作用過程について吟味する。
- 第14回：学級のなかで教師が児童生徒を理解するうえで有用な（主に、社会心理学的な研究をベースにした）知識や考え方について説明する。
- 第15回：学級における児童生徒の友人関係の特徴的事象について概観するとともに、児童生徒同士の良好な人間関係の形成を促すために教師に求められる働きかけなどについて検討する。

【授業内容】

第9回：心の健康教育といじめ防止教育について講述する。

いじめ被害にあった児童生徒が、心身の打撃から回復する方法があるという心の健康授業案を受講生に児童生徒役になってもらい体験してもらおう。また、いじめ加害をする児童生徒のストレスと対応についての授業案を受講生に体験してもらおう。いじめ加害を中心となってやる児童生徒は、家庭で虐待的養育を受けているなど親へのストレスを感じている。また、いじめに加担するものは、ストレスよりも規範意識の乏しさや同調性の高さが要因であることをデータに基づき伝える。

従来の道徳のいじめ防止の授業が、いじめられた児童生徒の物語を読むといった教材が多いのに対し、ストレスと同調性の観点から、いじめ防止の授業案を組み立てている。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（兵庫教育大学・大学院学校教育研究科）

授業科目名	生徒指導と学校教育相談
教員名（専門分野）	浅川 潔司（発達心理学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・選択・ 選択必修 ・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	第6条の2（免許法別表第1第3欄 教科又は教職に関する科目）
単位数・受講者数	2単位 ・ 45名
対象課程・対象学年	学部・ 修士 ・教職大学院 1年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所に下線）	<p>第1回：ガイダンスとオリエンテーション</p> <p>第2回：学校カウンセリングとは</p> <p>第3回：我国の生徒指導と学校カウンセリングとの関係</p> <p>第4回：学校カウンセリングに果たすスクールサイコロ時ストの役割</p> <p>第5回：スクールサイコロジストの学校における活動と心理教育的援助サービス</p> <p>第6回：学校カウンセリングの実際：不登校の児童・生徒の回復支援</p> <p>第7回：不登校の児童・生徒はその時何を思う？</p> <p>第8回：教師や学校カウンセラーの不登校回復支援の在り方</p> <p>第9回：不登校や発達障害を有する子どもへの、学校カウンセラーが行う教師・保護者・地域との共同的支援</p> <p><u>第10回：いじめ解決のための介入</u></p> <p>第11回：教育現場に生きる心理職の活動モデル学業の発達支援と教師・学校カウンセラーの協力</p> <p>第12回：キャリア発達支援に見られるアセスメントと学校心理学的支援</p> <p>第13回：各種の心理資格とその活動範囲</p> <p>第14回：学校心理士・スクールカウンセラーの倫理について</p> <p>第15回：まとめと試験</p>

【授業内容】

第10回：いじめ解決のための介入

いじめが直接的に自殺を引き起こすという立場からではなく、いじめを端緒として、個人の間人間関係が破壊されそれにもなって、個人が孤立し孤独感を抱くようになり、やがては鬱感情にさいなまれるというプロセスを示したうえで、様々な局面で介入の機会があることを講義した。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（兵庫教育大学・大学院学校教育研究科）

授業科目名	情動・社会性発達論
教員名（専門分野）	松村 京子（小児発達科学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・選択・ <u>選択必修</u> ・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	第6条の2（免許法別表第1第3欄 教科又は教職に関する科目）
単位数・受講者数	2単位 ・ 10名
対象課程・対象学年	学部・ <u>修士</u> ・教職大学院 1年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	<p>第1回：オリエンテーション</p> <p><u>第2回：子どもと親の情動・社会性に関連する問題</u></p> <p>第3回：情動喚起・表出メカニズム</p> <p>第4回：情動の脳科学</p> <p>第5回：情動・社会性の発達</p> <p>第6回：情動の読み取り能力の発達</p> <p>第7回：発達障害児の情動の読み取り</p> <p>第8回：情動応答性</p> <p>第9回：情動応答性の発達</p> <p><u>第10回：情動の表出とコントロール</u></p> <p>第11回：情動のコントロール不全</p> <p>第12回：情動と記憶</p> <p>第13回：情動知能の育成①－就学前教育－</p> <p>第14回：情動知能の育成②－小学校教育－</p> <p>第15回：まとめ</p>

【授業内容】

子どもの問題行動として、いじめ、キレル、暴力行為などがあげられる。また、親による子ども虐待も深刻である。これらに共通して考えられる問題は、相手の情動を読みとることや自分の情動コントロールがうまくできないことである。さらに、自閉症も情動の読みとりに問題を抱える。本講義では、情動・社会性とその発達について述べる。

第2回：子どもと親の情動・社会性に関連する問題

乳児期には自分自身で情動をコントロールすることができない。泣くことによって親などのまわりのおとなを呼び寄せ、情動を鎮めてもらう。このように乳児は親によって情動のコントロールをしてもらい、不快な情動を心地よく収める方法を学ぶ。そうして学んだ子どもはやがて発達に従って自分自身で情動コントロールできるように育っていく。一方、虐待を受けて育った子どもは自分の不快な情動を親から心地よく鎮める方法を学ばない。疲れて、あるいは諦めて、自分の中の怒りや不快な情動を鎮める。

情動コントロールができるか否かは、人とかかわる能力である社会性の発達に大きく影響する。いじめ、キレル、暴力行為は、自分自身の情動コントロールができないことが一因であることについて述べる。

第10回：情動の表出とコントロール

情動のコントロールによって、情動が表出される。情動コントロール不全によって怒りを外面化させた子ども達が、人をいじめたり、人に対して暴力をふるう。そのような子どもに育たないために、様々な予防プログラムが開発されている。筆者らも就学前、小学校低学年向けの予防プログラム **Social Thinking & Academic Readiness Training(START プログラム)**を開発している（チュートリアル DVD：<http://www.igakueizou.co.jp/>）。授業では、その内容や実践事例を紹介する。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（兵庫教育大学・大学院学校教育研究科）

授業科目名	児童青年精神病理学
教員名（専門分野）	岩井 圭司（精神保健学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・選択・ <u>選択必修</u> ・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	第6条の2（免許法別表第1第3欄 教科又は教職に関する科目）
単位数・受講者数	2単位 ・ 54名
対象課程・対象学年	学部・ <u>修士</u> ・教職大学院 1年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	<p>第1回：精神病理学への助走 病因論と近接領域</p> <p>第2回：主体と自我，意識</p> <p>第3回：意識内容と体験の現象学，知覚と幻覚，思考と妄想</p> <p>第4回：感情とその障害</p> <p>第5回：精神病理学的病態像（症状群），疾病分類と診断体系</p> <p>第6回：神経症</p> <p>第7回：パーソナリティ障害（人格障害）</p> <p>第8回：躁うつ病圏（気分障害）</p> <p>第9回：統合失調症とその周辺</p> <p>第10回：心的外傷と解離</p> <p><u>第11回：虐待といじめ</u></p> <p>第12回：嗜癖行動（含・摂食障害）</p> <p>第13回：涯精神発達 とくに思春期・青年期の位置づけをめぐって</p> <p>第14回：自閉症スペクトラムと適応</p> <p>第15回：愛着をめぐって</p>

【授業内容】

第11回：虐待といじめ

加害－被害関係の背景，加害者論，被害者論，介入論，社会通念といじめ

いじめの神話：「最近増えた」「日本特有」

いじめの特徴：相互性の欠如：他の暴力との違い

画期論：いじめの3段階（中井）：孤立化、無力化、透明化

時代変遷：支配－服従のいじめから、蹂躪－排除のいじめへ

予防と対応のために：子どもだけの問題ではないこと、加害者対策だけでは効果は期待できないこと

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（兵庫教育大学・大学院学校教育研究科）

授業科目名	からだと心の健康
教員名（専門分野）	西口 直希（精神医学）
教員の免許状取得のための 必修・選択の区分	必修・選択・ <u>選択必修</u> ・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上 の位置づけ	第6条の2（免許法別表第1第3欄 教科又は教職に関する科目）
単位数・受講者数	2単位 ・ 14名
対象課程・対象学年	学部・ <u>修士</u> ・教職大学院 1年生対象
授業計画 (いじめに該当する箇所 に下線)	<p>第1回：イントロダクション</p> <p>第2回：一次救命処置</p> <p>第3回：外傷に対する応急手当</p> <p>第4回：感染症</p> <p>第5回：アレルギー疾患</p> <p>第6回：水をめぐる生理と健康</p> <p>第7回：アルコールと健康</p> <p>第8回：依存性薬物と健康</p> <p>第9回：食にまつわる問題（肥満・摂食障害）</p> <p>第10回：健康の心身相関</p> <p>第11回：精神医学概論</p> <p>第12回：うつ病</p> <p>第13回：学校における発達障害</p> <p><u>第14回：不登校，いじめにおける精神医学</u></p> <p>第15回：まとめ</p>

【授業内容】

第14回：不登校，いじめにおける精神医学

不登校の原因となりうる精神疾患、ならびにいじめと関連する精神疾患として、不安障害、身体表現性障害、適応障害、統合失調症、PTSD等の精神疾患の概要について、解説する。不登校の特徴、対応の際の留意点等についても、若干の説明を行う。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（兵庫教育大学・大学院学校教育研究科）

授業科目名	学校精神保健学特論・学校精神保健特論
教員名（専門分野）	有園博子（臨床心理学）
教員の免許状取得のための 必修・選択の区分	必修・選択・ <u>選択必修</u> ・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上 の位置づけ	第6条の2（免許法別表第1第3欄 教科又は教職に関する科目）
単位数・受講者数	2単位 ・ 47名
対象課程・対象学年	学部・ <u>修士</u> ・教職大学院 1年生対象
授業計画 (いじめに該当する箇所に下線)	<p>第1回：精神保健学の方法論</p> <p>第2回：精神発達理論からみた疾患理解1</p> <p>第3回：精神発達理論からみた疾患理解2</p> <p><u>第4回：児童期・青年期の気になる行動1</u></p> <p><u>第5回：児童期・青年期の気になる行動2</u></p> <p><u>第6回：児童期・青年期の気になる行動3</u></p> <p>第7回：自殺と自殺未遂1</p> <p><u>第8回：自殺と自殺未遂2</u></p> <p>第9回：家庭内での人間関係と暴力1</p> <p><u>第10回：家庭内での人間関係と暴力2</u></p> <p>第11回：家庭内での人間関係と暴力3</p> <p>第12回：家庭内での人間関係と暴力4</p> <p><u>第13回：トラウマと精神保健学1</u></p> <p>第14回：トラウマと精神保健学2</p> <p>第15回：支援者のメンタルヘルス</p>

【授業内容】

以下の回で、いじめについて扱っている。

4	児童期・青年期の気になる行動 1(対内・対外行動／ 身体症状・分離不安,衝動・暴力行為等)
5	児童期・青年期の気になる行動 2(不登校・ひきこもり／ 予後と支援,定型発達児と発達障害児)
6	児童期・青年期の気になる行動 3(青年期から成人期の発達障害／ 当事者・家族への支援)
8	自殺と自殺未遂 2(各論:青少年の自殺の特徴と支援／子どもの死の理解,発達障害児の特徴)
10	家庭内での人間関係と暴力 2(基礎理論:力と支配の人間関係, 各論:当事者と家族への支援)
13	トラウマと精神保健学 1(概論:トラウマの歴史, 正常反応とレジリエンス,回復プロセスと支援, 二次被害)

内容的には、概ね以下のような項目について触れている。

- ・いじめの構造と集団力動、集団の精神病理構造、支配—被支配構造からの視点
- ・いじめ被害者・加害者・傍観者等のそれぞれに起こる心理的プロセスと変遷
- ・時間経過による心理的影響性(初期・中期・長期)
- ・集団に対する支援（ケア）を行うためのアセスメントと支援方法
- ・個人へのケアが必要な場合のアセスメントと支援方法
- ・危機介入についてのアセスメントと支援方法・支援チームづくりについて

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（奈良教育大学・教育学研究科）

授業科目名	教育臨床特論
教員名（専門分野）	市来 百合子（臨床心理学、学校教育臨床、芸術療法）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・ 選択 ・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	教職に関する科目
単位数・受講者数	2単位 ・ 10名（平成24年度受講者数）
対象課程・対象学年	学部・ 修士 ・教職大学院 1年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション <u>2.-4. 学校場面で生ずる諸問題の理解（いじめ、不登校、児童虐待、非行等）</u> 5.-6. 学校カウンセリングの基礎理論の理解 7.-10. カウンセリングマインドの実習 1)-4) 11.-12. 開発的カウンセリングの理解と実習 13.-14. 事例からの理解 15.まとめ

【授業内容】

(第2回：学校場面で生ずる諸問題の理解 (いじめ))

- ・「DVD でみる教育相談の実際」2009 中野明德編 を使って、II いじめ・非行の理解と対応を見て、考えさせ、解説する。レポートをみて、教員 (養護教諭、学年主任、管理職)、被害、加害児童生徒およびその保護者、クラスそれぞれの働きかけについて学ぶ。
- ・開発的教育相談の考え方について学び、いじめ抑止の土壌をつくる考え方について学ぶ。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（奈良教育大学・教育学研究科）

授業科目名	教育臨床演習
教員名（専門分野）	市来 百合子（臨床心理学、学校教育臨床、芸術療法）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・ <u>選択</u> ・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	教職に関する科目
単位数・受講者数	2単位 ・ 12名（平成24年度受講者数）
対象課程・対象学年	学部・ <u>修士</u> ・教職大学院 1年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 教育相談の意義と役割 3 教育相談の校内体制と役割 4 教育相談の進め方 対生徒 実習1 5 教育相談の進め方 対生徒 実習2 6 教育相談の進め方 対保護者実習3 7 不登校の理解と対応 8 <u>いじめについての理解と対応</u> 9 発達障害を抱える児童生徒に対する理解と対応 10 その他（非行、虐待等）に対する理解と対応 11 開発的な教育相談の方法その1 12 開発的な教育相談の方法その2 13 事例による検討 14 家庭、地域、外部機関との連携 15 まとめ

【授業内容】

(第8回：いじめについての理解と対応)

- ・「DVD でみる教育相談の実際」2009 中野明德編 を使って、II いじめ・非行の理解と対応を見て、考えさせ、解説する。
- ・仮想事例を提示し、そこでできる担任、学年、管理職の立場から考えさせ、被害、加害、その保護者、クラス全体への対応について考えさせる。
- ・予防的な支援（SST,アサーティブトレーニングなど）の意義について学ぶ。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（和歌山大学・教育学部）

授業科目名	教育心理学特論Ⅲ
教員名（専門分野）	米澤 好史(教育心理学・臨床発達心理学)
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・ <u>選択</u> ・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	学校教育専修科目 教育心理学分野
単位数・受講者数	2単位 ・ 2012年度は15名
対象課程・対象学年	学部・ <u>修士</u> ・教職大学院 1年生対象
授業計画 (いじめに該当する箇所 に下線)	<p>1 学習支援に教授・学習心理学、教育心理学を活かす（1）</p> <p>2 学習支援に教授・学習心理学、教育心理学を活かす（2）</p> <p>3 学習支援に教授・学習心理学、教育心理学を活かす（3）</p> <p>4 記憶・理解のメカニズムの理解と支援（1）</p> <p>5 記憶・理解のメカニズムの理解と支援（2）</p> <p>6 記憶・理解のメカニズムの理解と支援（3）</p> <p>7 意欲支援と動機付けの心理学（1）</p> <p>8 意欲支援と動機付けの心理学（2）</p> <p>9 意欲支援と動機付けの心理学（3）</p> <p>10 授業づくりと学習支援の実際（1）</p> <p>11 授業づくりと学習支援の実際（2）</p> <p>12 授業づくりと学習支援の実際（3）</p> <p><u>13 学級づくりと集団支援の実際（1）</u></p> <p><u>14 学級づくりと集団支援の実際（2）</u></p> <p><u>15 学級づくりと集団支援の実際（3）</u></p>

【授業内容】

13 学級づくりと集団支援の実際（1）

14 学級づくりと集団支援の実際（2）

15 学級づくりと集団支援の実際（3）

において、具体的事例として、いじめ、攻撃性の問題を持つこどもの心理の理解とその支援方法について検討している。

① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（和歌山大学・教育学部）

授業科目名	学習指導心理学研究
教員名（専門分野）	米澤 好史(教育心理学・臨床発達心理学)
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・ <u>選択</u> ・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	発達支援教育専修科目 発達支援指導法及び実践研究
単位数・受講者数	2単位 ・ 2012年度は15名
対象課程・対象学年	学部・ <u>修士</u> ・教職大学院 1・2年生対象
授業計画 (いじめに該当する箇所に下線)	<p>1 学習指導と生徒指導、子育て支援の関係</p> <p>2 学校教育における生徒指導・学習指導の連携の実際</p> <p>3 学校教育における子育て支援の観点の実際</p> <p><u>4 具体的な生徒指導と学習指導・子育て支援の連携の問題点（1）</u></p> <p><u>5 具体的な生徒指導と学習指導・子育て支援の連携の問題点（2）</u></p> <p><u>6 具体的な生徒指導と学習指導・子育て支援の連携の問題点（3）</u></p> <p><u>7 具体的な生徒指導と学習指導・子育て支援の連携の問題点（4）</u></p> <p>8 教育相談の実際と支援のあり方（1）</p> <p>9 教育相談の実際と支援のあり方（2）</p> <p>10 教育相談の実際と支援のあり方（3）</p> <p>11 学校教育における教育相談のあり方を現代こどもの特徴を踏まえて考察する</p> <p>12 キャリア教育と学習指導、生徒指導、子育て支援（1）</p> <p>13 キャリア教育と学習指導、生徒指導、子育て支援（2）</p> <p>14 キャリア教育の具体的検討と学校教育の役割（1）</p> <p>15 キャリア教育の具体的検討と学校教育の役割（2）</p>

【授業内容】

4 具体的な生徒指導と学習指導・子育て支援の連携の問題点（1）

5 具体的な生徒指導と学習指導・子育て支援の連携の問題点（2）

6 具体的な生徒指導と学習指導・子育て支援の連携の問題点（3）

7 具体的な生徒指導と学習指導・子育て支援の連携の問題点（4）

において、具体的事例として、いじめ、攻撃性の問題を持つこどもの理解と支援について検討している。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（島根大学・教育学研究科）

授業科目名	スクール・カウンセリング事例研究
教員名（専門分野）	岩宮恵子・三宅理子・高見友理・田中美樹・三嶋朋子（臨床心理学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・ <u>選択</u> ・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	教職に関する科目
単位数・受講者数	2単位 ・ 14名
対象課程・対象学年	学部・ <u>修士</u> ・教職大学院 1・2年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	第1回：オリエンテーション 第2回：不登校事例1 第3回：不登校事例2 <u>第4回：いじめ事例1</u> <u>第5回：いじめ事例2</u> 第6回：精神症状事例1 第7回：精神症状事例2 第8回：虐待事例1 第9回：虐待事例2 第10回：学級崩壊事例1 第11回：学級崩壊事例2 第12回：発達障害児事例1 第13回：発達障害事例2 第14回：相談室・保健室登校事例 第15回：まとめ

【授業内容】

(第4回：いじめ事例1／第5回：いじめ事例2)

担当教員が実際に経験した事例の中から、学校個人が特定されないように配慮した形で事例を院生に呈示し、関わりと理解を深めている。

例：子どもの言い分が一致しない事例

中学生女子Aさん。放課後、Aさんが落とした集金袋をクラスメイトBさんが拾う。返そうとAさんに声をかけるが、Bさんは故意に取られたと「返して」と大きな声を出し強い勢いでBさんに飛び掛った。その勢いに押され、Bさんは集金袋を持ったまま廊下に走り出し、Aさんの被害感は強まった。その後、クラス内でAさんに対するからかいがあったと、Aさん保護者が学校に訴え、話し合いとなる。話し合いの場はAさんの保護者ペースで進められ、集金袋を取った取らないで意見が食い違う。学校の先生が話し合いの主導権をとることなく、Bさんの言い分が「嘘つき」として一方的に扱われ、Bさんは学校不信で不登校傾向となった。……以下略。

このような事例を呈示し、Aさん・Bさん双方の子ども理解、その理解に基づく対応の可能性について検討を行う。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（島根大学・教育学研究科）

授業科目名	臨床心理基礎実習 I
教員名（専門分野）	高見 友理（臨床心理学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	<u>必修</u> ・選択・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	教職に関する科目
単位数・受講者数	2単位 ・ 10名
対象課程・対象学年	学部・ <u>修士</u> ・教職大学院 1年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	<p>第1回：電話による相談申し込み受付の実習</p> <p><u>第2回：心理臨床における倫理</u></p> <p>第3回：面接の構造枠</p> <p>第4回：相談における記録とその取り扱い</p> <p>第5回：受理面接</p> <p>第6回：面接における基本的な応答</p> <p>第7回：遊戯療法の基本</p> <p>第8回：親子並行面接、教師等へのコンサルテーションの基本</p> <p>第9回：箱庭制作実習</p> <p>第10回： ”</p> <p>第11回：フィンガーペインティング実習</p> <p>第12回：砂絵実習</p> <p>第13回：木制作実習</p> <p><u>第14回：事例の理解（いじめ事例に対する理解と対応）</u></p> <p>第15回：まとめ</p>

【授業内容】

(第2回：心理臨床における倫理)

いじめや虐待など、子どもの人権を脅かす暴力の問題に関する現状について講義を行っている。子どもを暴力から守るための倫理的意識について理解を深め、加害的立場、被害的立場それぞれに対する、事情を聞く際の注意事項や配慮事項、また、保護者への対応についても事例を挙げながら理解を共有している。

(第14回：事例の理解（いじめ事例に対する理解と対応）

いじめに対する支援事例をもとに講義を行い、ディスカッションを行っている。被害児童、加害児童、及びその家族への支援、また、教師に対するコンサルテーションについて、理解を深める。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（鳴門教育大学・学校教育学部・大学院学校教育研究科）

授業科目名	子ども理解と生徒指導
教員名（専門分野）	小倉 正義, 葛西 真記子, 吉井 健治（臨床心理学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・ <u>選択</u> ・ <u>選択必修</u> ・その他（査定外）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	教職に関する科目
単位数・受講者数	2単位 ・ 199名
対象課程・対象学年	学部・ <u>修士</u> ・教職大学院 1・2年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所に下線）	<p>1 オリエンテーション</p> <p>2 構成的グループエンカウンター(1)</p> <p>3 構成的グループエンカウンター(2)</p> <p>4 構成的グループエンカウンター(3)</p> <p>5 子ども理解～幼児期～</p> <p>6 子ども理解～児童期～</p> <p>7 子ども理解～思春期～</p> <p><u>8 インターネット・携帯電話と子ども</u></p> <p>9 発達障害の子どもたち(1)</p> <p>10 発達障害の子どもたち(2)</p> <p>11 心理教育プログラム</p> <p>12 チーム援助の理論と実際</p> <p>13 不登校のグループ・アプローチ</p> <p>14 不登校の訪問臨床</p> <p>15 スクールカウンセラーの実践について</p> <p>8ではネットいじめについて。他のところでも随時話をしている。</p>

【授業内容】

この授業は、不登校、いじめ、非行、学校の荒れ、心の教育など、学校教育の諸問題に対し、臨床心理学の観点から、実践的理論を論ずることが授業の目的である。また、教師の力量の1つとして、カウンセリングについても論ずる。この授業を学ぶことにより、教師が生徒指導（子ども理解や教育相談を含む）を行ううえで実際に役立つ根本的な考え方や態度を習得することを、到達目標としている。また、スクールカウンセラーが活動するうえで必要な視点や考え方についても習得できる内容で構成されている。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（鳴門教育大学・大学院学校教育研究科）

授業科目名	生徒指導論（進路指導を含む）
教員名（専門分野）	葛上 秀文（教育社会学），吉井 健治，小倉 正義（臨床心理学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修・ <input type="checkbox"/> 選択・ <input type="checkbox"/> 選択必修・その他（ <input type="checkbox"/> ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	生徒指導，教育相談及び進路指導等に関する科目 ・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導の理論及び方法
単位数・受講者数	2単位 ・ 89名
対象課程・対象学年	学部・ <input checked="" type="checkbox"/> 修士・教職大学院 修士 1，2年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	<p>1 オリエンテーション(第1週)</p> <p>2 心理的視点から</p> <p>(1) 生徒指導と子どもの心</p> <p>(2) 不登校</p> <p><u>(3) いじめ</u></p> <p>(4) 生徒指導上の諸問題</p> <p>(5) 発達障害児への生徒指導</p> <p>(6) スクールカウンセラーとの連携(1)</p> <p>(7) スクールカウンセラーとの連携(2)</p> <p>3 教育的視点から</p> <p>(1) 生徒指導の理論的背景</p> <p>(2) 生徒指導の実態とその原因</p> <p>(3) 小中学校の生徒指導の課題</p> <p>(4) 高等学校における生徒指導の課題</p> <p>(5) 生徒指導体制について</p> <p>(6) 子どもの課題への具体的対応</p> <p>(7) 保護者トラブルへの具体的対応</p> <p>(8) 進路指導とキャリア教育</p>

【授業内容】

こども理解、教育相談、ガイダンス、進路指導など、広く学校教育における教育機能としての生徒指導について、教師として学校で実際に役立つ根本的な考え方や態度を、教育的、心理的視点から学ぶ。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（鳴門教育大学・学校教育学部・大学院学校教育研究科）

授業科目名	カウンセリング論 B
教員名（専門分野）	久米 禎子, 吉井 健治, 小倉 正義（臨床心理学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	<u>必修</u> ・選択・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	生徒指導，教育相談及び進路指導等に関する科目 ・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法
単位数・受講者数	2 単位 ・ 109 名
対象課程・対象学年	学部・ <u>修士</u> ・教職大学院 1, 2 年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	1 オリエンテーション 2 カウンセリングの基礎理論(1) 3 カウンセリングの基礎理論(2) 4 カウンセリングの基礎理論(3) 5 カウンセリングの基礎理論(4) 6 子どもの話を聴く(1) 7 子どもの話を聴く(2) 8 中間のまとめ 9 保護者の話を聴く(1) 10 保護者の話を聴く(2) 11 青年期の心理と心の悩み 12 不登校について <u>13 いじめについて</u> 14 スクールカウンセラー活用の歴史・現状・課題 15 全体のまとめ

【授業内容】

学校教育において、児童生徒一人ひとりの人格形成を促したり種々の不適応や問題行動の予防的・開発的・解決的な教育指導・援助に取り組んでいく上で、カウンセリングに関する基礎的知識や基本的態度・技法を身に付けておくことが必要である。本授業では、カウンセリングの理論や技法、心の発達段階に応じた児童生徒理解や諸問題への対応等について概説する。また、不登校やいじめ、非行、および保護者への対応や他機関との連携等について、実践的・実地的な考え方や対応について学習する。

本授業を通して、生徒指導や教育相談における教師としての基礎的实践力を養うことができる。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（鳴門教育大学・学校教育学部・大学院学校教育研究科）

授業科目名	予防教育科学
教員名（専門分野）	佐々木 恵（行動医学） 内田 香奈子（学校心理学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・ <u>選択</u> ・ <u>選択必修</u> ・その他（ 査定外 ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	教職に関する科目
単位数・受講者数	2 単位 ・ 39 名
対象課程・対象学年	学部・ <u>修士</u> ・教職大学院 1・2 年生対象
授業計画 (いじめに該当する箇所 に下線)	<p>第 1 回：<u>子どもたちの健康問題・適応問題の現状</u></p> <p>第 2 回：予防教育科学とは</p> <p>第 3 回：ベース総合教育：感情の理解と対処の育成(理論編)</p> <p>第 4 回：ベース総合教育：感情の理解と対処の育成(実践編)</p> <p>第 5 回：ベース総合教育：自己信頼心(自信)の育成(理論編)</p> <p>第 6 回：ベース総合教育：自己信頼心(自信)の育成(実践編)</p> <p>第 7 回：<u>ベース総合教育：向社会性の育成(理論編)</u></p> <p>第 8 回：<u>ベース総合教育：向社会性の育成(実践編)</u></p> <p>第 9 回：ベース総合教育：ソーシャル・スキルの育成(理論編)</p> <p>第 10 回：ベース総合教育：ソーシャル・スキルの育成(実践編)</p> <p>第 11 回：オプション教育：身体健康系教育プログラム(理論編・実践編)</p> <p>第 12 回：オプション教育：精神健康系教育プログラム(理論編・実践編)</p> <p>第 13 回：オプション教育：危険行動系教育プログラム(理論編・実践編)</p> <p>第 14 回：<u>オプション教育：学校適応系教育プログラム(理論編・実践編)</u></p> <p>第 15 回：まとめおよび将来の展望</p> <p>*<u>いじめ問題</u>を含め子どもの学校適応問題は、いじめに特化して予防しては効果がない。いじめ、暴力、不登校等は根本的な問題から生じているので、総合的なアプローチが強調される。したがって、本授業は、児童・生徒の健康・適応全般に関わるため、すべての回においていじめと関係があるが、特に密接なものに下線を付与している。</p>

【授業内容】

<本講義の趣旨>

近年の学校教育現場では、児童・生徒の心身の健康や適応に関する問題に対して、問題が生じた後の対症療法的な対応だけでなく、すべての児童・生徒を対象としたユニバーサル予防的なアプローチが求められている。本学予防教育科学教育研究センターでは、このようなニーズに対応すべく、「いのちと友情の学校予防教育(Trial Of Prevention School Education for Life and Friendship: TOPSELF)」を開発・展開している。TOPSELFは、健康・適応の基礎を築くベース総合教育と、特定の問題の予防に特化したオプショナル教育からなる。本講義では、これらの教育の背景にある理論ならびに実践について理解し、教育者として予防教育科学の視点を獲得することを到達目標とする。

第1回：子どもたちの健康問題・適応問題の現状

いじめを含め、現在の学校教育現場における子どもたちの健康問題・適応問題について、受講生の関心のある領域について意見交換をするとともに、現状を概観し、学習への動機づけを高めた。

第7回：ベース総合教育：向社会性の育成(理論編)

いじめを予防する根本的な策として、児童・生徒の適応的な対人関係性を育成することが必要である。その要素のひとつが向社会性(他者を援助するための、感情・認知・行動特性)の育成である。本講義では、その理論的背景について詳細に解説し、実際に行われている授業の科学的根拠の理解を促した。

第8回：ベース総合教育：向社会性の育成(実践編)

第7回で学習した理論的背景をもとに、実際の授業(一例)を体験する。2012年度では、中学1年生の第6回目の授業を扱い、他者への援助行動を阻む要因(他者からの評価への懸念、傍観者効果など)について、ディベートを含めた授業の実習を行った。



授業風景

第14回：オプショナル教育：学校適応系教育プログラム(理論編・実践編)

学校適応問題の特定の領域に短期的にアプローチするオプショナル教育のうち、いじめ予防のプログラムの理論的背景の解説と実習を行う(2012年度は2013年1月に実施予定)。



授業風景

(写真は2011年度のもの)

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（愛媛大学・教育学部）

授業科目名	下欄
教員名（専門分野）	下欄
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・ <u>選択</u> ・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	教科又は教職
単位数・受講者数	2単位 47名（合計人数）
対象課程・対象学年	学部・ <u>修士</u> ・教職大学院 1年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所に下線）	<p>大学院（修士課程）の以下の授業科目（担当教員）が、シラバスの上で、いじめ問題を扱うこととされている。</p> <p>〈学校教育専攻〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「感情・社会性の発達と支援」（橋本巖） 2. 「情緒発達心理学特論」（橋本巖） 3. 「学級経営と人間関係づくり」（白松賢） 4. 「学校経営特論」（白松賢） 5. 「学校現場での心理学的支援」（江上園子） <p>〈学校臨床心理専攻〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. 「生徒支援実践特論」（太田佳光） 7. 「スクールカウンセリングの理論と実践」（相模健人） 8. 「学校臨床心理学特論」（紅谷博美，夏野良司）

【授業内容】

上記授業科目の概要等のみを記す。

〈学校教育専攻〉

1. 「感情・社会性の発達と支援」(橋本巖)

乳幼児期から児童期、青年期における子どもの情緒発達・社会性の発達とその支援について、言語や認知、自己などの他領域の発達とも絡めながら、主に発達心理学の理論と知見に基づいて学ぶ。感情発達では、情緒的レパートリーの拡大、自己意識的感情、愛着の発達、共感性、感情表出とその制御、ストレス対処、情緒的自律、レジリエンスなど。社会性については、自他の関係性、コミュニケーション、仲間、家族との関連、など。主要な側面の発達過程と特に学齢期以降の発達課題、および発達に影響する社会的要因の理解と実例をふまえて、支援を考える視点について受講者によるディスカッションを中心に検討する。

2. 「情緒発達心理学特論」(橋本巖)

(上記授業と事実上ワンセットで行われているため、概要は上記と同じ)

3. 「学級経営と人間関係づくり」(白松賢)

教育研究の二つの認識論を理解し、認識論を統合したり、分離することによって多角的に教育課題について考える。教育課題では、「授業の質」「学級経営の問題」などを取りあげ、日常の教育現場の実践と知識を結びつけて、教育臨床学の立場で考察する。

4. 「学校経営特論」(白松賢)

(上記授業と事実上ワンセットで行われているため、概要は上記と同じ)

5. 「学校現場での心理学的支援」(江上園子)

(いじめについての経験やそのときの感情について話し合うワークを含む。)

〈学校臨床心理専攻〉

6. 「生徒支援実践特論」(太田佳光)

いじめ、校内暴力、学級崩壊等の教育問題の現象を、社会学や社会病理学の視点を用いて分析する。その上で、問題行動を起こす児童・生徒への支援・指導の方法や、その他の学級集団を構成する児童・生徒への支援・指導の方法論を検討する。

7. 「スクールカウンセリングの理論と実践」(相模健人)

授業前半ではスクールカウンセリングの理論と実践について概説。それ以降はスクールカウンセリングに関する知識について実習を踏まえて学びながら、子どもにとって有効な関わりについて考える。その中で、いじめの対応についてのスクールカウンセリングも取り上げる。

8. 「学校臨床心理学特論」(紅谷博美, 夏野良司)

学校において心理的援助を必要とする諸問題への対応を概観し、ついで、学校に適用できるいくつかのカウンセリングや心理療法の理論と技法について、演習を交えて学習する。その中で、いじめ問題の理解と対応を取り扱う。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（福岡教育大学・教育学部）

授業科目名	カウンセリング心理学特論
教員名（専門分野）	中島 義実（臨床心理学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	選択必修
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	専修免許状における教職に関する科目
単位数・受講者数	2単位 ・ 10名
対象課程・対象学年	修士 1, 2年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所に下線）	<p>1 オリエンテーション</p> <p>2 課題レポートをめぐって</p> <p>3 基本的な考え方</p> <p><u>4-14 事例の検討と文献の講読</u></p> <p><u>事例の検討では、受講者各自が、これまでの学びや仕事の中で体験してきた、対人援助に関する体験談について、順番に発表し、それにもつづいてディスカッションを行う。</u></p> <p>15 まとめ</p>

【授業内容】

大学院教育科学専攻の教育科学基礎科目に位置付けられるものである。

教育科学専攻の大学院生の学習ニーズにおいて、「カウンセリング」という語は幅色い学習ニーズが存在している。そこで、受講者各自のこれまでの教育や対人援助における実践例や体験談を素材とし、それらについてディスカッションを通して臨床心理学的に深めていく。知識を増やす授業というよりも、考えや思いをめぐらせ、動かし、とりかわすことで、臨床心理学的発想力を養う授業である。

同時に、精神医学的知識へのニーズも高まっているので、適宜それらについても知識を補っていく。

該当箇所においては、受講者各自の教育や対人援助における実践例や体験談を扱っていくが、その中には例年大概1例は、いじめ、ないしは、それに発展しかねなかった状況への事前対処の事例が上がることが多い。

また、精神医学的知識へのニーズの中に、いじめにかんするものも大概あるものであり、特に、トラウマの理解とそのケアに関するところを中心に解説している。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（福岡教育大学・教育学部）

授業科目名	生徒指導演習
教員名（専門分野）	黒川 雅幸（教育社会心理学）
教員の免許状取得のための 必修・選択の区分	必修・ <u>選択</u> ・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上 の位置づけ	教職に関する科目
単位数・受講者数	2単位 ・ 9名
対象課程・対象学年	学部・ <u>修士</u> ・教職大学院 1,2年生対象
授業計画 (いじめに該当する箇所 に下線)	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 基本的な生活習慣 3. ストレス 4. 引っ込み思案な子どもへの対応 5. 攻撃的な子どもへの対応 6. <u>いじめ</u> 7. 向社会的行動 8. 非社会的行動 9. 反社会的行動 10. インターネットと子ども 11. 児童虐待 12. キャリア教育 13. 学校外連携 14. 学校における危機管理 15. まとめ

【授業内容】

基礎的な理論を踏まえたうえで、実践的な指導方法を理解し、さらに開発的な教育支援を目的とした指導方法の立案を行う（受講者による授業指導案の作成）。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（佐賀大学・教育学研究科）

授業科目名	学級集団心理学・生徒指導特論
教員名（専門分野）	村山 詩帆（教育社会学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・ 選択 ・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	幼専免、小専免
単位数・受講者数	2単位 ・ 2名
対象課程・対象学年	学部・ 修士 ・教職大学院 1年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	<p>1 オリエンテーション(シラバス、成績評価の方法と基準等の説明) 次回までの課題:講義内容と各自の研究テーマとの接点を確認しておくこと。</p> <p>2 学級集団の管理・運営① 次回までの課題:講義内容を整理しておくこと。</p> <p>3 学級集団の管理・運営② 次回までの課題:講義内容を整理しておくこと。</p> <p>4 授業秩序の形成 次回までの課題:講義内容を整理しておくこと。</p> <p>5 信頼と協調の集団力学① 次回までの課題:ゲームのルールをよく理解しておくこと。</p> <p>6 信頼と協調の集団力学② 次回までの課題:何が優越戦略なのかを検討しておくこと。</p> <p>7 信頼と協調の集団力学③ 次回までの課題:ゲームの結果について原因を考察しておくこと。</p> <p>8 信頼と協調の集団力学④ 次回までの課題:見えない他者との協調可能性について考察しておくこと。</p> <p>9 教育達成とパーソナリティ① 次回までの課題:講義内容を整理しておくこと。</p> <p>10 教育達成とパーソナリティ② 次回までの課題:講義内容を整理しておくこと。</p> <p>11 リーダーシップ 次回までの課題:講義内容を整理しておくこと。</p> <p>12 教育問題の解題① 次回までの課題:質疑応答の内容を整理し、推敲しておくこと。</p> <p>13 教育問題の解題② 次回までの課題:質疑応答の内容を整理し、推敲しておくこと。</p> <p>14 教育問題の解題③ 次回までの課題:質疑応答の内容を整理し、推敲しておくこと。</p> <p>15 総括(コメントのフィードバック)</p>

【授業内容】

生徒指導のあり方は学級集団にかかっており、学級集団のあり方もまた、生徒指導にかかっている。こうした学級集団と生徒指導の関係は、学校教育をアカデミック／応用のいずれのレベルで理解するにあたって、重要な結節点になっている。本講義では、受講者の学級集団理解に新たな視座が生まれるよう、社会心理学や社会学など、社会科学の研究成果を広く紹介しながら、一般的な集団力学と、学級に特有の学級集団力学を比較する。最終的には、学級集団が成立する過程を整理して理解するための洞察力が向上することを目指している。

社会心理学や社会学などの社会科学の研究成果をレビューし、受講生にプレゼンテーションを課すことにより、学級集団が成立する過程を観察するための高度な洞察力の獲得を目指す。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（長崎大学・教育学部）

授業科目名	生徒指導[3P]
教員名（専門分野）	松尾 博臣（教育学(生徒指導、生涯学習)）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・ <u>選択</u> ・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目 ・生徒指導の理論及び方法 ・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法 ・進路指導の理論及び方法
単位数・受講者数	2単位 ・ 0名
対象課程・対象学年	学部・ <u>修士</u> ・教職大学院 1, 2, 3年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	第1回 授業ガイダンス 第2回 生徒指導の基本的考え方 第3回 問題行動の実態概要 第4回 暴力行為 第5回 体罰の禁止 第6回 集団指導と個別指導の意義、学校における生徒指導体制 <u>第7回 いじめ1</u> <u>第8回 いじめ2</u> 第9回 児童生徒の心理と児童生徒理解 第10回 不登校1 第11回 不登校2 第12回 携帯電話を巡る課題 第13回 保護者対応1 第14回 保護者対応2 第15回 学校・家庭・地域の連携 第16回 ふりかえり

【授業内容】

第7回 いじめ1

いじめの定義

いじめの状況

認知件数とその推移

現在の解消率等

学年別認知件数

いじめられた児童生徒の相談状況

いじめの態様

いじめられた児童生徒への対応

いじめの日常的な実態把握のために

学校が直接児童生徒に行った具体的な方法

いじめ相談ホットライン

いじめの基本的な考え方

いじめの早期発見・早期対応について

いじめを許さない学校づくりについて

いじめの4層構造

第8回 いじめ2

長崎県に見るいじめ対応施策

いじめが起こった場合の対応方法

事実確認の留意点

いじめの判断

対応上の留意点

チームによる対応の仕方

いじめのサインと教師のチェックポイント

いじめている子どもへの指導

傍観的な立場の子どもへの指導

ケーススタディ

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（長崎大学・教育学部）

授業科目名	学校カウンセリングの実践法 I
教員名（専門分野）	内野 成美 （臨床心理学、教育心理学、特別支援教育）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・ <u>選択</u> ・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	_____
単位数・受講者数	2単位 ・ 4名
対象課程・対象学年	学部・ <u>修士</u> ・教職大学院 1、2、3年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所に下線）	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校における教育相談の意義と役割 2 教師に望まれるカウンセリングマインド 3 パーソナリティとその理解① 4 パーソナリティとその理解② 5 心理検査とその利用法① 6 心理検査とその利用法② 7 カウンセリングの技法① 8 カウンセリングの技法② 9 カウンセリングの技法③ ロールプレイを通して 10 不登校の理解と対応 11 発達障害の理解と対応 <u>12 いじめの理解と対応</u> 13 非行の理解と対応 14 性に関する問題の理解と対応 15 学校における問題行動事例研究

【授業内容】

12 いじめの理解と対応

○事前に課題としていた、最近のいじめに関する記事や学習支援等に関わった学校の事例等の情報を発表する。

○文科省によるいじめの定義の確認

○「いじめ」を知る

- ・歴史的流れ
- ・諸外国との比較
- ・現在の日本のいじめ問題

○いじめ⇒不登校, いじめ⇒自殺 など 新聞記事等を使いながら

いじめとは何か、未然防止・早期解決のための手立てについて検討を行う。

○シェアリング

○まとめ

いじめは被害者の立場に立って対応を行うべきものとされているが、実際にその状況になると、何がいじめなのか、被害と加害の状況等も見えづらいとされる。

その見えづらさを実際に追体験しながら、教師としてどのような支援を考えていくのかを考えることができるよう授業を構成している。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（長崎大学・教育学部）

授業科目名	学校カウンセリングの実践法Ⅱ
教員名（専門分野）	内野 成美 （臨床心理学、教育心理学、特別支援教育）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・ <u>選択</u> ・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	_____
単位数・受講者数	2単位 ・ 2名
対象課程・対象学年	学部・ <u>修士</u> ・教職大学院 1年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所に下線）	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校カウンセリングの理解 2 面接や事例研究の進め方 3 心理検査① 4 心理検査② 5 カウンセリングの意義 6 カウンセリングの技法① 7 カウンセリングの技法② 8 カウンセリングの技法③ 9 特別な支援を要する子どもたちの理解と対応① 10 特別な支援を要する子どもたちの理解と対応② 11 不登校の理解と対応 <u>12 いじめの理解と対応</u> 13 非行の理解と対応 14 生徒の進路についての援助 15 事例研究 16 報告書の提出

【授業内容】

12 いじめの理解と対応

○実際の教育の場面であった事例について、その発端や経過、結果について互いに紹介し合う。

○文科省によるいじめの定義の確認

○「いじめ」を知る

- ・歴史的流れ
- ・諸外国との比較
- ・現在の日本のいじめ問題

○いじめ⇒不登校、いじめ⇒自殺 など 新聞記事等を使いながら

いじめとは何か、未然防止・早期解決のための手立てについて検討を行う。

○シェアリング

○まとめ

いじめは被害者の立場に立って対応を行うべきものとされているが、実際にその状況になると、何がいじめなのか、被害と加害の状況等も見えづらいとされる。

その見えづらさを、教師としての経験を生かして振り返ってもらいながら、今後、新たな視点も含めた解決法を講じることができるよう授業を構成している。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（長崎大学・教育学部）

授業科目名	人権教育の理論と実際 I
教員名（専門分野）	二里 淳司（生徒指導）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・ 選択 ・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	_____
単位数・受講者数	2単位 ・ 5名
対象課程・対象学年	学部・ 修士 ・教職大学院 1、2、3年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業説明（ガイダンス） 2 人権及び人権教育の歴史の変遷 3 国際社会における人権教育の位置づけ 4 人権教育の啓発に関する基本計画 5 学校における人権教育の指導方法 6 人権教育に関する取組①（女性） 7 人権教育に関する取組②（子ども） 8 人権教育に関する取組③（高齢者） 9 人権教育に関する取組④（障がいがある人） 10 人権教育に関する取組⑤（同和問題） 11 人権教育に関する取組⑥（同和教育の実際） 12 人権教育に関する取組⑦（インターネットによる人権侵害） <u>13 いじめと人権教育</u> 14 ソーシャルスキルトレーニングの実際 15 授業のまとめ（プレゼンテーション）

【授業内容】

13 いじめと人権教育

1 授業の目的と概要

- (1) いじめの実態を「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」（文部科学省）から読み取り、いじめの実態とともに、その特徴の変化を読み取る。また、いじめの定義を明確にするとともに、いじめが持つ人権上の諸問題をその教員の立場から検証する。
- (2) 人権教育におけるいじめの防止の在り方について、具体的な事例を通して具体的に理解する。また、演習を通して、学級経営におけるいじめ問題に向けた取組を人権教育の視点から考察する。

2 授業内容

- (1) 近年のいじめの認知といじめの特徴
- (2) 学校におけるいじめの対応
- (3) 学校におけるいじめ防止のための人権教育の実践
- (4) 人権教育を核とした学級担任としてのいじめ防止対策の在り方

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（長崎大学・教育学部）

授業科目名	人権教育の理論と実際Ⅱ
教員名（専門分野）	二里 淳司（生徒指導）
教員の免許状取得のための 必修・選択の区分	必修・ <u>選択</u> ・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上 の位置づけ	_____
単位数・受講者数	2単位 ・ 1名
対象課程・対象学年	学部・ <u>修士</u> ・教職大学院 1、2、3年生対象
授業計画 (いじめに該当する箇所 に下線)	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業説明（ガイダンス） 2 人権教育の目標 3 人権教育の啓発に関する基本計画 4 学校における人権教育のあり方 5 人権教育に関する取組①（性・子どもと人権） 6 人権教育に関する取組②（同和問題と人権） 7 人権教育に関する具体的取組（実践案の検討） 8 ソーシャルスキルトレーニング①（共感性、傾聴的態度） 9 ソーシャルスキルトレーニング②（アサーショントレーニング） <u>10 いじめと人権教育</u> <u>11 いじめを許さない教育環境</u> 12 インターネット社会と人権侵害 13 家庭、地域社会との連携協力 14 人権教育担当者の役割とその課題 15 授業のまとめ（プレゼンテーション）

【授業内容】

10 いじめと人権教育

1 授業の目的と概要

- (1) いじめの実態を「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」（文部科学省）から読み取り、いじめの実態とともに、その特徴の変容を読み取る。また、児童生徒の発達段階と照らし、いじめ発生の背景、要因等について考察する。
- (2) いじめ問題を核とした人権教育のすすめ方について、学校現場が抱える課題および問題点を抽出し、具体的な行動に移すためのプランニングを行う。

2 授業内容

- (1) 近年のいじめの認知といじめの特徴
- (2) 学校におけるいじめ問題にかかる人権教育推進の課題
- (3) 人権教育リーダーとしてのいじめ防止計画の検討

11 いじめを許さない教育環境

1 授業の目的と概要

- (1) 人権教育の日本的性格といじめ問題との関連を明確にし、児童生徒をめぐる社会の環境について考える。
- (2) いじめ問題を生徒指導と関連づけながら、人権教育の視点からの具体的指導のあり方を考察する。

2 授業内容

- (1) 日本の人権教育の性格といじめの問題の関係
- (2) いじめ問題に対する生徒指導と人権教育の在り方
- (3) 学級担任としての計画と日常的な実践

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（長崎大学・教育学部）

授業科目名	生徒指導・教育相談実習 I
教員名（専門分野）	笹山 龍太郎（特別支援教育） 内野 成美（臨床心理学、教育心理学、特別支援教育） 小原 達朗（スポーツ科学(運動生理学、トレーニング論)、身体教育学(子どもの体と心))
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	_____
単位数・受講者数	2単位 ・ 8名
対象課程・対象学年	学部・ <input checked="" type="checkbox"/> 修士・教職大学院 1、2、3年生対象
授業計画 (いじめに該当する箇所に下線)	<p>月曜日、火曜日で 90 時間以上、延べおよそ 10 日間以上の実習期間で下記の内容を行う。</p> <p>①児童生徒の行動観察や指導補助を通して、一人ひとりの児童生徒の個性や集団としての特徴などについて理解を図る。</p> <p>②学校における教師と児童生徒のかかわり方の観察や指導補助を通してカウンセリングマインドやキャリア教育の意義について理解を深める。</p> <p><u>③いじめ、不登校等について事例研究を中心に現場の教師と話し合い、適切に対応できるための知識や技能の形成を図る。</u></p>

【授業内容】

③いじめ、不登校等について事例研究を中心に現場の教師と話し合い、適切に対応できるための知識や技能の形成を図る。

○いじめの定義

○いじめの件数の統計

○いじめの種類

○いじめられていることを言えない子どもの心理

○家庭で見られるサイン

○いじめ問題への対応

○演習

○社会に影響を与えたいじめ事件

○いじめる心理

○いじめの構造

○最近のいじめの構造

○いじめの被害者を助けてあげてほしい人は？

○いじめ問題への対応

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（長崎大学・教育学部）

授業科目名	生徒指導・教育相談実習Ⅱ
教員名（専門分野）	笹山 龍太郎（特別支援教育） 内野 成美（臨床心理学、教育心理学、特別支援教育） 小原 達朗（スポーツ科学(運動生理学、トレーニング論)、身体教育学(子どもの体と心))
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	_____
単位数・受講者数	2単位 ・ 0名
対象課程・対象学年	学部・ <input checked="" type="checkbox"/> 修士・教職大学院 1、2、3年生対象
授業計画 (いじめに該当する箇所に下線)	<p>月曜日、火曜日で 90 時間以上、延べおよそ 10 日間以上の実習期間で下記の内容を行う。</p> <p>①生徒指導の具体的な指導計画の立案、カウンセリングマインドやロールプレイを生かした教育相談、問題行動に関する事例研究など、指導計画の立案と指導実践などを通じて、教育上配慮を必要とする児童生徒への支援の技能を高める。</p> <p><u>②発達障害、いじめ、不登校等について、適切な対応について取り組むとともに、関係機関等の連携の在り方について理解を深め実践できるようにする。</u></p>

【授業内容】

②発達障害、いじめ、不登校等について、適切な対応について取り組むとともに、関係機関等の連携の在り方について理解を深め実践できるようになる。

○いじめの定義

○いじめの件数の統計

○いじめの種類

○いじめられていることを言えない子どもの心理

○家庭で見られるサイン

○いじめ問題への対応

○演習

○社会に影響を与えたいじめ事件

○いじめる心理

○いじめの構造

○最近のいじめの構造

○いじめの被害者を助けてあげてほしい人は？

○いじめ問題への対応

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（長崎大学・教育学部）

授業科目名	教育相談の理論と実際 I
教員名（専門分野）	内野 成美 （臨床心理学、教育心理学、特別支援教育）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修・選択・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	_____
単位数・受講者数	2 単位 ・ 8 名
対象課程・対象学年	学部・ <input checked="" type="checkbox"/> 修士・教職大学院 1, 2, 3 年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所に下線）	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒指導におけるカウンセリングの意義 2 カウンセリングマインドの概念の検討 3 傾聴 4 受容 5 共感的理解 6 カウンセリングの諸技法① 7 カウンセリングの諸技法② 8 集団へのカウンセリング力を生かした対応 9 不登校事例の理解と対応① 10 不登校事例の理解と対応② 11 特別な支援を要する事例への理解と対応① 12 特別な支援を要する事例への理解と対応② <u>13 いじめ事例への理解と対応</u> 14 非行事例への理解と対応 15 ソーシャルスキルの検討 16 レポートの提出

【授業内容】

13 いじめ事例への理解と対応

○事前に課題としていた、最近のいじめに関する記事や学習支援等に関わった学校の事例等の情報を発表する。

○文科省によるいじめの定義の確認

○「いじめ」を知る

- ・歴史的流れ
- ・諸外国との比較
- ・現在の日本のいじめ問題

○いじめ⇒不登校, いじめ⇒自殺 など 新聞記事等を使いながら

いじめとは何か、未然防止・早期解決のための手立てについて検討を行う。

○シェアリング

○まとめ

いじめは被害者の立場に立って対応を行うべきものとされているが、実際にその状況になると、何がいじめなのか、被害と加害の状況等も見えづらいとされる。

その見えづらさを実際に追体験しながら、教師としてどのような支援を考えていくのかを考えることができるよう授業を構成している。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（長崎大学・教育学部）

授業科目名	教育相談の理論と実際Ⅱ
教員名（専門分野）	内野 成美 （臨床心理学、教育心理学、特別支援教育）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・ 選択 ・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	_____
単位数・受講者数	2単位 ・ 8名
対象課程・対象学年	学部・ 修士 ・教職大学院 3年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校における教育相談の意義と役割 2 教師に望まれるカウンセリングマインド 3 教師カウンセラーに求められる資質 4 教師カウンセラーの教育実践における特性 5 学校における教員の協働体制と教師カウンセラーの役割 6 スクールカウンセラーと教師カウンセラー 7 保護者と教師カウンセラーのパートナーシップ 8 教師カウンセラーによる開発的カウンセリング事例研究 9 ブリーフカウンセリングの特徴 10 教育現場における教師カウンセラーの実践事例研究① 11 教育現場における教師カウンセラーの実践事例研究② 12 教育現場における教師カウンセラーの実践事例研究③ 13 <u>いじめ・不登校と教育相談</u> 14 発達障害と教育相談 15 学校カウンセリングの統合活動 16 レポートの提出

【授業内容】

13 いじめ・不登校と教育相談

○実際の教育の場面であった事例について、その発端や経過、結果について互いに紹介し合う。

○文科省によるいじめの定義の確認

○「いじめ」を知る

- ・歴史的流れ
- ・諸外国との比較
- ・現在の日本のいじめ問題

○いじめ⇒不登校、いじめ⇒自殺 など 新聞記事等を使いながらいじめとは何か、未然防止・早期解決のための手立てについて検討を行う。

○シェアリング

○まとめ

いじめは被害者の立場に立って対応を行うべきものとされているが、実際にその状況になると、何がいじめなのか、被害と加害の状況等も見えづらいとされる。

その見えづらさを、教師としての経験を生かして振り返ってもらいながら、今後、新たな視点も含めた解決法を講じることができるよう授業を構成している。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（大分大学・教育福祉科学部）

授業科目名	学校臨床心理学特論
教員名（専門分野）	武内 珠美
教員の免許状取得のための 必修・選択の区分	必修・ <u>選択</u> ・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上 の位置づけ	_____
単位数・受講者数	2単位 ・ 6名
対象課程・対象学年	学部・ <u>修士</u> ・教職大学院 1・2年生対象
授業計画 (いじめに該当する箇所に下線)	<ol style="list-style-type: none"> 1 教育相談の考え方と進め方について 2 児童生徒の問題行動や症状の捉え方 3 学校におけるアセスメント 4 児童生徒の発達とつまずき 5 不登校 6 <u>いじめ・いじめられ</u> 7 非行・少年犯罪 8 神経症的問題 9 心身症 10 ADHD,LD,アスペルガーなどの発達障害 11 思春期の自己破壊的問題（リストカット、薬物） 12 人格障害・精神障害 13 PTSD（学校の危機管理を含む） 14 被虐待 15 教育・医療保健・福祉機能の必要性和教育相談 16 最終レポート提出

【授業内容】

いじめ・いじめられ問題について、

いじめのタイプ、いじめる子どものタイプや背景要因、いじめられる子どものタイプ、いじめにかかわる加害者・被害者・傍観者などの人種分けなどについて、概観し、いじめ予防のためのクラス経営・学校経営について、またいじめが発生したあとの対応について学ぶ。さらに、まとめられている実践事例や、大学院生で現職教員がいればその先生が経験したいじめ問題を実践事例として用い、いじめに対して学校の教員とスクールカウンセラーがどのように連携して対応するのかについて、学ぶと同時に検討を加える。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（大分大学・教育福祉科学部）

授業科目名	生徒指導論演習
教員名（専門分野）	長谷川 祐介
教員の免許状取得のための 必修・選択の区分	必修・ 選択 ・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上 の位置づけ	_____
単位数・受講者数	2単位 ・ 13名
対象課程・対象学年	学部・ 修士 ・教職大学院 1年生対象
授業計画 (いじめに該当する箇所 に下線)	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション：授業の進め方 2. 生徒指導の定義、内容 3. 逸脱に関する概念：逸脱、非行、犯罪 4. 実態主義と定義主義 5. 実態主義的研究 6. ラベリング理論 7. 構築主義 8. <u>いじめに関する社会学的研究（1）</u> 9. <u>いじめに関する社会学的研究（2）</u> 10. 不登校に関する社会学的研究（1） 11. 不登校に関する社会学的研究（2） 12. 教育困難校における生徒指導 13. 発達障害と生徒指導 14. 薬物問題と生徒指導 15. まとめ

【授業内容】

この授業は、生徒指導に関連する教育社会学の学術論文の購読を通して、生徒指導に関する実践的指導力を培うことを目的としている。

8. いじめに関する社会学的研究（1）

森田洋司（1994）「「いじめ」の見え方」森田洋司・清永賢二『新訂版 いじめ -教室の病い』金子書房。

上記論文の購読を通して、いじめ現象の理解において重要な理論枠組みである「いじめ集団の四層構造論」の理解を深める。

9. いじめに関する社会学的研究（2）

片桐隆嗣（2004）「「ナレーター」としての新聞報道」北澤毅・片桐隆嗣『少年犯罪の社会的構築 -「山形マット死事件」 迷宮の構図』東洋館出版社。

上記のいじめに関する構築主義に関する研究の購読を通して、いじめ事件がマスコミ報道を通して構築されていく過程について理解を深める。